

山梨県韮崎市

HANMAIBA SITE

飯米場遺跡

—市道拡幅に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2002

韮崎市教育委員会  
韮崎市遺跡調査会

山梨県韮崎市

HANMAIBA SITE  
飯米場遺跡

—市道拡幅に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2002

韮崎市教育委員会  
韮崎市遺跡調査会

## 序 文

垂崎市穂坂町に所在する飯米場遺跡は、古くからその存在が知られており、本市に所在する坂井遺跡とならんで、県内で考古学黎明期に発掘調査が行われたことで有名であります。過去の発掘調査で出土した遺物の一部は上野の東京国立博物館で常設展示されており、考古・美術的にも大変優れた遺跡であります。このたび市道拡幅のために遺跡の一部が破壊されることから発掘調査となりました。狭い発掘調査区でありながら縄文時代の竪穴住居跡や埋甕など多くの遺構・遺物が発見されました。調査中は隣接する穂坂小学校の生徒さんが見学・体験発掘をするなど、地域の文化について触れる機会ともなりました。

本報告書が学術的に考古学や歴史学の研究の一助となるとともに、地域文化の発展の一起爆剤となることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり地域の皆様をはじめとして、関係各機関・諸氏に厚くお礼を申し上げます。

平成14年3月29日

垂崎市遺跡調査会

会長 小野修一

## 例　　言

- 本書は山梨県韮崎市穂坂町字飯米場地内に所在する飯米場遺跡の発掘調査報告書である。韮崎市から委託を受け、韮崎市遺跡調査会が発掘調査を平成12年度に、報告書刊行業務を平成13年度に実施した。
- 本書の原稿執筆は、第3章第5節を角張淳一、その他を間間俊明がおこない、編集は間間がおこなった。
- 本書で用いた地図は建設省国土地理院発行の地形図  
(1:200000)、地勢図(1:25000)、韮崎市発行の都市計画図(1:2500)である。
- 第2章第3節で報告した東京国立博物館所蔵品は許可を得て作成したものである。
- 本書に関わる出土品・諸記録は韮崎市教育委員会に保管されている。
- 発掘調査から本報告書刊行までの間、多くの方々や、諸機関から多大なご教示、ご配慮を賜りました。ご芳名は記しませんが感謝するしだいであります。
- 調査組織は以下のとおりである。  
平成12年度

調査主体：韮崎市遺跡調査会

現地調査担当：間間俊明

調査参加者：石井清明・岩下雅美・上野理江・小沢成秀・  
小野初美・向山完二・向山れい子・横森芳子

平成13年度

調査主体：韮崎市遺跡調査会

整理担当：間間俊明・秋山圭子

整理参加者：阿部由美子・石原ひろみ・上野理江・小沢  
雄介・小野初美・木内純子・鈴達かおり・戸辺千裕・  
橋木大介・深沢真知子

事務局(藍崎市教育委員会生涯学習推進室学術文化財係)

教育長：奥石薰、課長：真壁静夫、室長：長野栄太、  
リーダー：山下孝司、間間俊明、秋山圭子

## 凡　　例

- 遺跡全体図のグリッドは現行道路に沿って任意に設定した。
- 遺構・遺物の掲載範囲は原則として次の通りである。  
(遺構) 壁穴住居跡 1/40 出土状況図 1/80  
　　炉・柱穴・土坑 1/20 溝・全体図 任意  
(遺物) 土器・陶磁器(実測・拓本)1/2・1/4・1/6  
　　土製品 1/2
- 土器・土製品観察表中胎土の粒子は多く見られるものから順に記した。

## 目　　次

序	
例　　言	
目　　次	
第1章　調査経過	1

## 第2章　飯米場遺跡とその周辺の環境

第1節　地理的環境

第2節　歴史的環境

第3節　飯米場遺跡調査史

## 第3章　遺構と遺物

第1節　遺　構

第2節　土器・土製品

第3節　石　器

## 写真図版

## 挿　　図　目　　次

第1図　飯米場遺跡位置図(1)	5
第2図　飯米場遺跡位置図(2)	6
第3図　飯米場遺跡調査区位置図	6
第4図　平成4年度調査区平面図	7
第5図　平成4年度飯米場遺跡出土遺物	8
第6・7図　飯米場遺跡出土遺物(東京国立博物館所蔵)	9-10
第8図　飯米場遺跡構造配置図(1)	11
第9図　飯米場遺跡構造配置図(2)	11
第10図　土管平・断面図	11
第11図　4号土坑平・断面図	12
第12図　1号住居跡平・断面図	13
第13図　2号住居跡平・断面図	14
第14図　3号住居跡平・断面図	15
第15図　1・2号埋甕平・断面図	15
第16図　3号埋甕平・断面図	15
第17図　4号埋甕平・断面図	15
第18図　2・36・37号土坑平・断面図	16
第19図　3号土坑平・断面図	16
第20図　5号土坑平・断面図	17
第21図　9号土坑平・断面図	17
第22図　16号土坑平・断面図	17
第23図　22号土坑平・断面図	17
第24図　1・2号住居跡出土遺物	18
第25図　1号埋甕出土遺物	18
第26図　2・3・4号埋甕出土遺物	19
第27図　1・2号土坑出土遺物	20
第28図　3号土坑出土遺物	21
第29図　5・6・9・12・15・16・17・22・24・26・ 28・37・38・51・55・59・61号土坑出土遺物	22
第30～32図　遺構外出土遺物	23～25
第33図　4号土坑出土遺物	25
第34図　1・3号住居跡・31号土坑出土石器	26
第35図　2号住居跡出土石器・剥片石器	27
第36図　磨製石斧・礫石器(1)	28
第37図　礫石器(2)	29

## 表　　目　　次

第1表　グリッド・遺構毎の時期別出土土器重量表	30
第2～4表　観察表(1)～(3)(土器・土製品・石造物)	31～34
第5表　観察表(4)(石器)	34

# 第1章 調査経過

平成12年に韮崎市教育委員会へ市道拡幅予定地内の埋蔵文化財有無確認調査の依頼が韮崎市建設課からあり、同年に有無確認調査を実施した結果、予定地内が遺跡であることを確認した。協議の結果、遺跡の破壊が免れないため、平成12年度に発掘調査を実施、平成13年度に出土品等整理業務を行うこととした。

発掘調査は平成12年10月20日から開始し、終了したの

は12月15日である。試掘時の予想をはるかに上回り、縄文時代の竪穴住居跡3軒・土坑・近世以降の溝跡1条の遺構を確認し、約40箱の遺物が出土した。

発掘調査終了後に遺物の洗浄・注記を実施し、平成13年度に本格的に整理作業を開始した。出土遺物の属性をそれぞれ記録し、接合作業を延べ30人日実施し、その後報告書作成作業をおこなった。

# 第2章 飯米場遺跡とその周辺の環境

## 第1節 地理的環境

飯米場遺跡の所在する韮崎市穂坂町字飯米場は、韮崎市を貫流する塩川と茅ヶ岳の間の緩やかな傾斜を持つ穂坂丘陵の標高508m前後に所在する。穂坂丘陵は全城にわたり、塩川に注ぎ込む細い沢による深い谷間によって南北の移動を困難なものとしている。

当遺跡の北東側には比高差約40mの権現沢が流れ、そこに到るまでに低位の段丘が一段あり上手沢遺跡が所在する。

## 第2節 歴史的環境

穂坂の地が歴史上に登場してくるのは『延喜式』である。「甲斐国柏前牧眞衣野牧穂坂牧凡任牧監者一人、又曰凡年貢御馬者甲斐國六十疋、眞衣野柏前兩牧卅疋坂牧疋壯」とあり、山梨に柏前牧、眞衣野牧と穂坂牧があり、穂坂牧からは30頭の馬が獻上されたとされる。この穂坂牧の推定地が現在の韮崎市穂坂である。同書には神社に関する記述がある。巨摩郡の五大式内社として神部神社、穗見神社、宇波刀神社、倭文神社と笠置神社が挙げられている。この倭文神社は飯米場遺跡範囲内にある倭文神社と比定されている。祭神は建御名方命と機織姫命である。しかしながら、平安時代の遺跡は穂坂地区では極めて稀であり、考古学的には穂坂牧が特定されないまま現在にいたっている。

## 第3節 飯米場遺跡調査史

前節で指摘したように穂坂地区での平安時代の遺跡は少ないが、それ以前の遺跡は数が多い。特に飯米場遺跡は、坂井遺跡（韮崎市）や長坂上条遺跡（長坂町）といった山梨県考古学黎明期に調査が実施された遺跡として有名であり、県内初の竪穴住居跡の確認に成功した遺跡でもある。

以下に飯米場遺跡の調査略史等を記しておく。

当遺跡が全国的に知られるようになったのは、明治43年（1910）に柴田常喜が『人類学雑誌26号』に資料報告したことによる。以後、大正13年（1924）に鳥居龍藏が現在東京国立博物館に所蔵されている顔面把手などを

『諫訪史』に取り上げ、昭和2年（1927）に杉山寿栄男が『日本原始工芸図版』で取り上げている。これらの刊行物により、飯米場遺跡は中部山岳地帯の縄文時代の代表的な遺跡としての位置付けがなされるようになる。

刊行物と併行する形で、飯米場遺跡地内に所在する学校の改築等に伴って調査も実施された。記録に残る『先史原始時代調査』・『史跡名勝天然記念物6-11』・『史前学雑誌』など) 最初の発見は明治41年で、小学校改築整地中に直徑2mの炉跡及び14個体の深鉢形土器が出土している。その後も学校整地のたびに遺構・遺物が確認されていく。昭和2年に4基の炉跡、同5年に吊手土器や同6年の倭文神社玉垣造営中に石棒など（現在耕作付近に所在するものと考えられる）が発見される。

これらは工事中の発見であったが、昭和6年から本格的な調査が実施され、同年に仁科義男がその調査成果について『甲斐國穂坂村先史時代の調査』として『史跡名勝天然記念物第6集第11号』に掲載している。昭和7年には北巨摩教育郷土研究部（三枝善衛・志村滝蔵・仁科義男・赤岡重樹・浅川耕造・船留久・進藤伯太郎等）によって調査がなされ、その成果は『先史原始時代調査』として刊行される。そして、8年後の昭和15年に大山柏史前学研究所を中心として発掘調査が行われ、山梨県ではじめて発掘調査により竪穴住居跡の検出に成功した。成果は翌年に、竹下次作・井出左重によって『史前学雑誌13-6』上に「山梨県穂坂村飯米場遺跡発掘報告」として報告された。以上の調査に関連する主たる資料は穂坂小学校で保管されていたが、昭和27年の火事により焼失してしまった。その後も、小学校の改築等のたびに遺構・遺物の発見は続き、それらの遺物に関しては穂坂小学校で保管され、火災を免れた資料の一部は東京国立博物館に所蔵され、また韮崎市教育委員会にも資料が保管されている。

このように飯米場遺跡の調査は古く、本市に所在する坂井遺跡と並んで、山梨県の考古学黎明期に位置付けられると同時に、出土資料の活用も活発に行われた。

昭和50年には同39年に発掘された炉跡2基を移設保存し、同58年には竪穴住居と掘立柱建物を復原し、縄文時

代の生活を知るための教材として用いられた。郷土の歴史を郷土の将来を担う子供たちと考えて取り組みの嘴矢といえる。

#### 東京国立博物館所蔵出土品

三枝善術氏の所有していた資料4点が東京国立博物館に寄贈され、保管されている。いずれの資料も出土地点や出土年などの詳細については不明である。

第6図1は顔面把手で、顔が土器の内面を向いている。腕及び腹まで表現されている。

同図2は曾利III式前半の小型の深鉢形土器である。口縁部に斜行沈線文が施文されているが、重複が著しく、頸部の隆線も2段と3段の箇所があり粗雑な施文といえる。

同図3はX字状把手付大型深鉢形土器である。底部は欠損しており、逆位埋設の埋甕の可能性が高い。内面に調整痕と考えられるヘラ痕が観察できる。

第7図4は曾利II式の吊手土器である。

同図5は曾利I式の大型深鉢形土器である。口縁部は無文で、頸部には4単位の扁平な橋状把手が付され、把手間は横位波状隆線が充填される。この横位波状隆線は隆線を波状に貼り付けた後に波状部を剥離する部分もある。胴部は2単位の垂下隆線文とU字状隆線文が施文され、地文は半截竹管の内皮による条線である。

3・5の深鉢形土器は、器の規模が北巨摩郡内で出土する当該期の土器と比較して大きく、駿河堂遺跡群をはじめとする甲府盆地東側のものに類似している。

#### 平成4・5年度調査

平成3年度に穂坂小学校改築にともない、当該地域の埋蔵文化財の取り扱いについて市教育委員会学校教育課と社会教育課との間で事前の打合せが行われた。穂坂小学校敷地は飯米場遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地であったため、協議の結果建設工事に先立って埋蔵文化財の有無確認調査（試掘調査）を行い、遺跡が確認された場合には本調査を実施することとし、工事の工程に合わせる形で平成4年度と平成5年度の2回にわけて試掘調査

査実施の予定を立てた。

平成4年度は、新校舎建設予定地域の試掘調査で、8月25日～9月11日にトレーナーによる遺構等の確認作業を行った。トレーナーは任意に東西方向に10本程度、花壇をめぐる形で円形に1本設定した。調査地域は、旧校舎・プール等の建設によってすでに造成削平されており、暗褐色の整地土層を取り除くと黄～橙褐色のローム土・粘性土となり、東西方向に設定したトレーナーからは遺構等は確認されなかったが、花壇周囲の円形トレーナーでは炉跡が確認され土器片などが出土したため、拡張して調査を実施した。

平成5年度は、新体育館並びに新プールの建設予定地の試掘調査で、5月に体育館、平成6年2月にプール予定地のトレーナーによる遺構等の確認作業を行った。トレーナーは体育館部分で任意に南北方向に3本、プール部分で任意に東西方向に4本設定した。調査地域は、造成削平されており、暗褐色の整地土層を取り除くと黄～橙褐色のローム土・粘性土となり、遺跡は確認されなかった。

平成4年度の調査において、唯一発見された炉跡周囲を広げて住居の確認を行った。炉を中心床面と壁の立ちあがりを挿したもので、削平等により不明瞭であった。柱穴の検出も行ったが不明瞭であった。炉は1m×75cmの大きさで、覆土には若干の焼土が散り、深さ40cm前後の石組炉で西側にのみ石が残っていた。穴は4ヶ所程確認された。炉から土器片、花壇基礎下の包含層から磨製石斧などが出土した。

炉から西に6m程離れて土坑が1基確認された。径90cm×1m5cmの不整な横円形で、深さ45cm前後を測る。覆土中より土器片が出土した。

出土遺物は1号住居から曾利I式土器及び打製石斧など、1号土坑から曾利I式土器及び石器などが出土している。勝坂式後半から曾利式前半以外の遺物は出土していない。第3章以下で報告する平成12年度調査区とは様相を異にしている。

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 遺構

堅穴住居跡3軒、埋甕4基、土坑27基などの遺構を確認した。

#### 1号住居跡

調査区東側に位置する。貼床を確認したことから住居跡と認定した。

直径6.5m程度の円形プランになり、東側の壁は緩やかに傾斜するベット状遺構が見られる。貼床は堅穴内ほぼ中央に見られる。覆土中の遺物は勝坂式後半から曾利式前半であることと、S D22とした貼床の下から確認した土坑が勝坂式終末に相当することから、住居は勝坂後半の所産である。

#### 2号住居跡

調査区西側に位置する。敷石及び炉を確認したことから住居跡と認定した。

炉は最低1回作り替えられ、新しい炉は石團で中央に土器2個体を埋設している。埋設土器から堀之内式期の所産である。

#### 3号住居跡

調査区ほぼ中央に位置する。直径約4mの円形を呈するものと考えられる。壁よりやや内側に周溝が巡る。

埋甕1・2号及び4号が堅穴内で確認されている。4号については確認面が覆土中であることから堅穴埋没後に埋設されたものであり、1・2号については床面と確

認面が同じであるが堅穴に伴うという確証はない。

覆土中の出土土器と埋甕から、曾利式後半の所産と考えられる。

S D 29~32は3号住居構築以前の土坑である。

#### 1・2号埋甕

3号住居跡の堅穴内で確認したものである。出土状況は3号住居跡で述べたとおりである。

1号埋甕はやや斜めに正位に土器を埋設している。土器自体も斜めに胸部上半を欠いており、故意に斜位埋設したものと考えられる。曾利V式期である。

2号埋甕は正位に土器を埋設している。胸部上半及び底部の一部を欠いている。埋甕内覆土中からやや浮いた状態でヒスイ製石製品が1点出土している。埋甕が土器埋設後に完全に土を被せると仮定すれば、埋甕内に埋納された稀有な事例といえる。曾利V式期である。

#### 3号埋甕

底部のみが正位で確認されたものである。土器の胎土等から縄文時代中期と考えられる。

#### 4号埋甕

3号住居跡の堅穴内で確認したものである。28号土坑(S D 28)により東側半分を壊されている。

底部を欠いた状態で正位に埋設されたものである。

#### 2号土坑(S D 2)

やや橢円形の平面形態をした土坑である。曾利II式の深鉢形土器一個体の破片がまとまって出土している。出土状況から、樹木根が埋甕内で成長し破壊したものと考えられる。

#### 3号土坑(S D 3)

3号住居の西側にあるが、堅穴内の可能性もある。最低4個体分の土器が出土している。いずれの土器も大型破片である。出土した土器はすべて曾利V式である。S D 3-2の口縁部文様帯がなく、胸部の区画文がせり上がるものと、S D 3-4の口縁部文様帯をもつものが共存する事例である。

#### 4号土坑(S D 4)

ほぼ円形で直径約30cmの土坑である。石造物や大型礫が出土している。石造物S D 4-1には「・月夜見尊」「・四年未七月 吉日」「願主七人」と彫られている。

#### 5号土坑(S D 5)

3点の礫が底面付近からまとまって出土したものであり、時期は不明である。

#### 9号土坑(S D 9)

確認面からの深さは数cmであり、藤内式の口縁部が出土している。

#### 22号土坑(S D 22)

底面付近から1個体分の井戸尻式土器が2つに分かれて出土した。

## 第2節 土器・土製品

包含層から縄文時代早期から後期の土器が出土してい

る(第30~32図)。

包-1~7は胎土に織維を含み、条痕は丁寧なナデ調整によりほとんど観察できない。早期末から前期初頭と考えられる。包-8~21は勝板式終末から曾利式初頭に位置付けられる。包-17~19は粘土紐貼付文があるが、他要素に勝板式の要素が見られる。包-22~33は曾利I~II式である。包-33では結節縄文が施文されている。

包-34~42は曾利III~V式である。包-43~47は加曾利E 3~4式に併行する地文に縄文施文された一群である。包-48~53は称名寺式に相当する。包-54~75は堀之内I式、包-76~93は堀之内2式に相当する。包-94~95は加曾利B式に相当する。

包-96~97は古墳時代初頭の台環甕である。

## 第3節 石 器

出土石器は33点であり、その整理は図版化と属性表を作成した。以下に石器の説明を図版に従って行う。

### 1 属性表の項目

法量：長さ・幅・厚みを基本とした。

器種：技術的・形態的な定義で器種を記述した。詳細は石器の説明項目で記述する。

剥離技術：ハンマーの種類と身振りによって、6種類の剥離技術を記述した。凡例は次のとおりである。

直接打撃+ハードハンマー=HD

間接打撃+ハードハンマー=HI

押圧剥離+ハードハンマー=HP

直接打撃+ソフトハンマー=SD

間接打撃+ソフトハンマー=SI

押圧剥離+ソフトハンマー=SP

### 2 器種と数量

多孔石5点、石棒2点、石皿3点、くぼみ石1点、磨石1点、ハンマーストーン3点、石錐2点、石錐1点、石鐵7点(形態のわかるもの5点、断片1点、未製品1点)、石核1点、石匙1点、削器1点、磨製石斧5点、石製垂飾1点である。

### 3 石器の説明(石器説明番号はアルカ通番)

#### 1号住居跡出土石器(第34図-29~31)

1号住居は凹石2点が出土している。凹石は先端の尖る硬い工具を垂直に下ろして穿孔されている。

#### 3号住居跡出土石器(第34図-5)

3号住居は石鐵の脚部の断片のみの出土で、変形する工具(ソフトハンマー)で押圧剥離がなされている。

#### 2号住居跡出土石器(第35図-13~16·20~22·24~33)

磨製石斧1点、粗製の大形削器1点、板状の石皿1点、敲石2点、石棒1点の出土である。L3の磨製石斧は擦切と研磨で成形加工されている。L3の磨製石斧は擦切と研磨で成形加工されている。

大形の石棒は被熱資料で、破断面は再研磨されている。

#### 31号土坑出土石器(第34図-9)

石匙1点の出土である。

### 剥片石器と磨製石斧（第36・36図）

石鏃は断片も含めてすべて圓化した。住居内出土の石鏃はソフトハンマーで成形されているが、遺構外の石鏃は細い先端をもつハードハンマーで成形加工されている。出土位置によって工具の種類が異なる。

8の石錐は珪岩製でハードハンマーの押圧剥離で成形されている。この石器は石錐としているが、尖頭器を模した小形のミニチュア石器の可能性もある。

10は使用痕剥片である。脇部が屈曲する剥片を選択している。

11は珪岩製の石核である。ハードハンマー直接打撃で力強く剥離作業を行っている。

磨製石斧はすべて擦切り技術で成形され、研磨加工がなされている。磨製石斧は統一的な技術で製作されている。垂崎市宿尻遺跡に、擦切技術がほとんどないことと対照的である。

### 砾石器類（第36・37図）

砾石器類は、打ち欠き石錐2点、磨石4点、石棒1点、

凹石3点である。

打ち欠き石錐は小円錐の両端を簡単に打ち欠いただけの石器である。磨石は楕円錐と円錐があり、すべて敲打痕が観察できる。

石棒は側部の断片であるが、被熱資料で、破断面を再研磨している。凹石は大形のものが3点出土している。

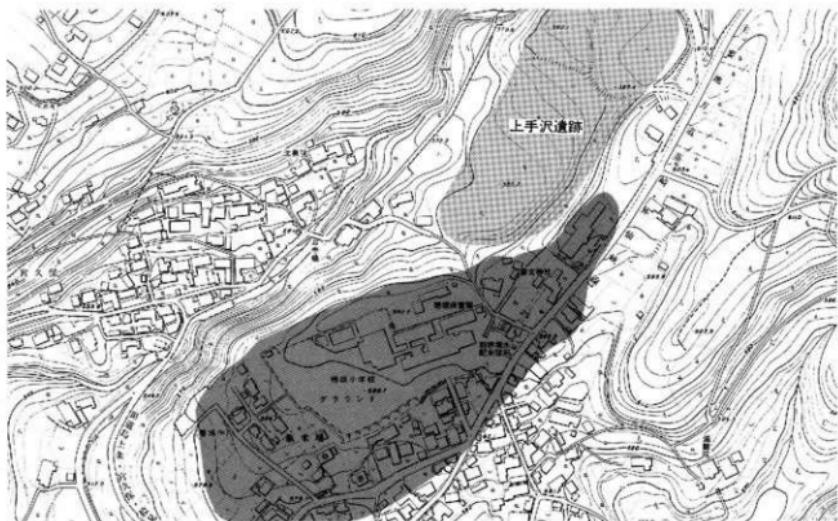
### 4 飯米場遺跡の石器

総数33点の石器は、断片的な様相であるものの、いくつかの興味深い現象が観察できる。以下それを箇条書きにする。

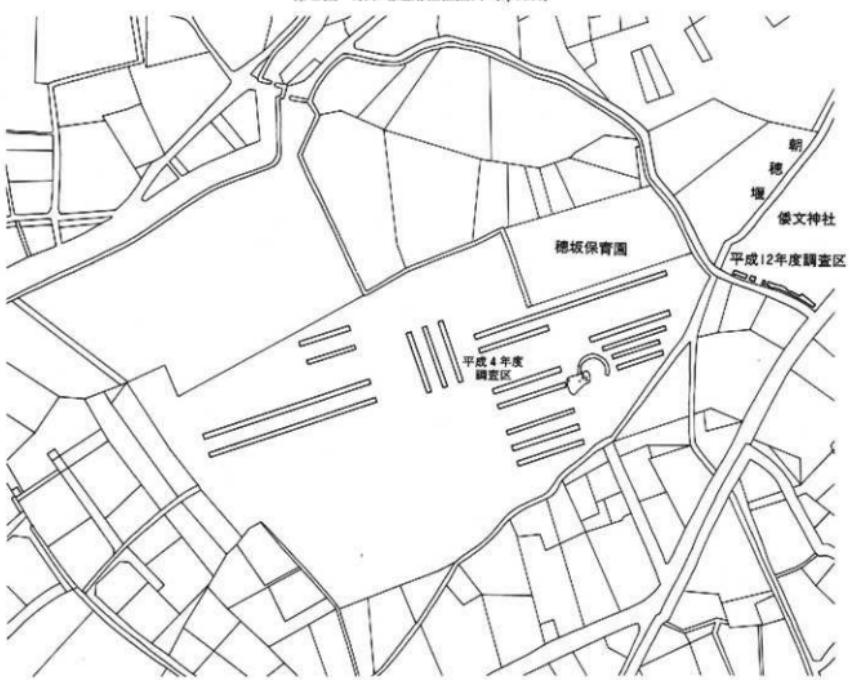
- ①石錐はすべて黒曜石製である。
- ②珪岩の石核が出土しているので、珪岩製の小形剥片石器の存在も予想される。
- ③磨製石斧はすべて擦切技術で成形されており、技法的な統一をもっている。
- ④住居跡内には大形石器が主体に出土し、定形剥片石器類はほとんど出土しない。



第1図 飯米場遺跡位置図(I) (上: S = 1/200,000、下: S = 1/25,000)

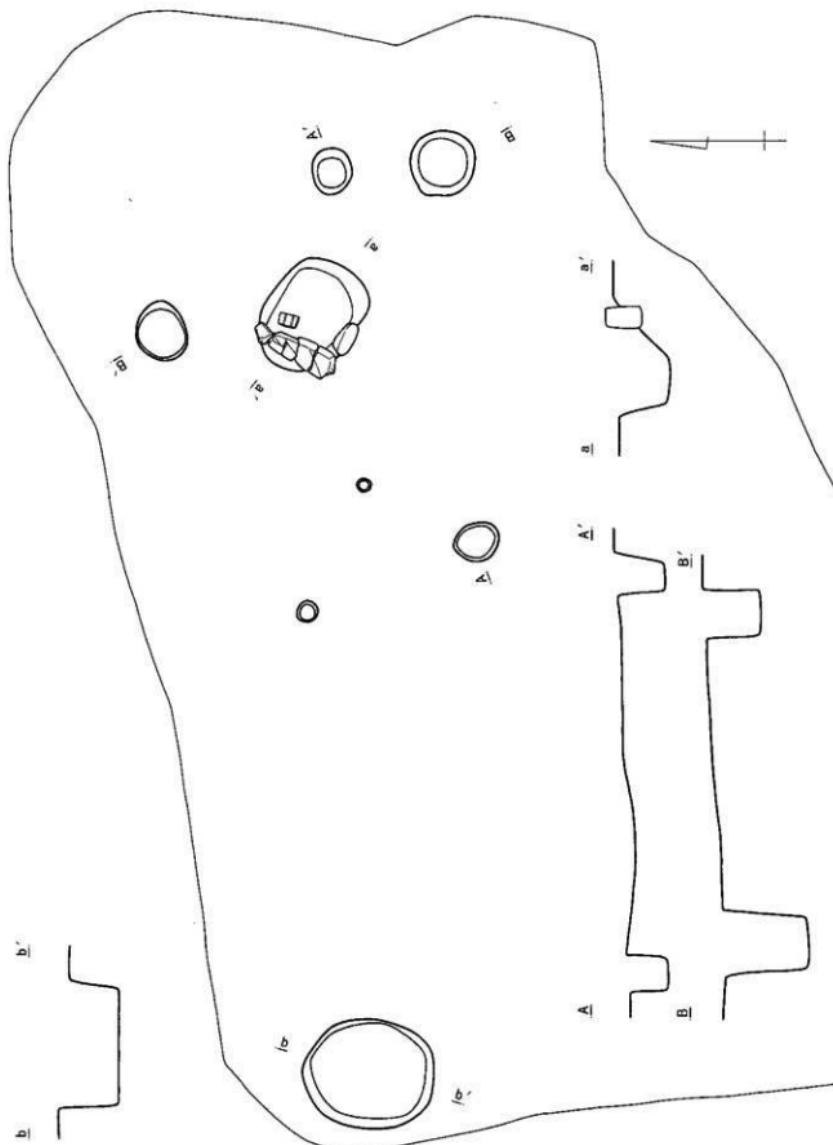


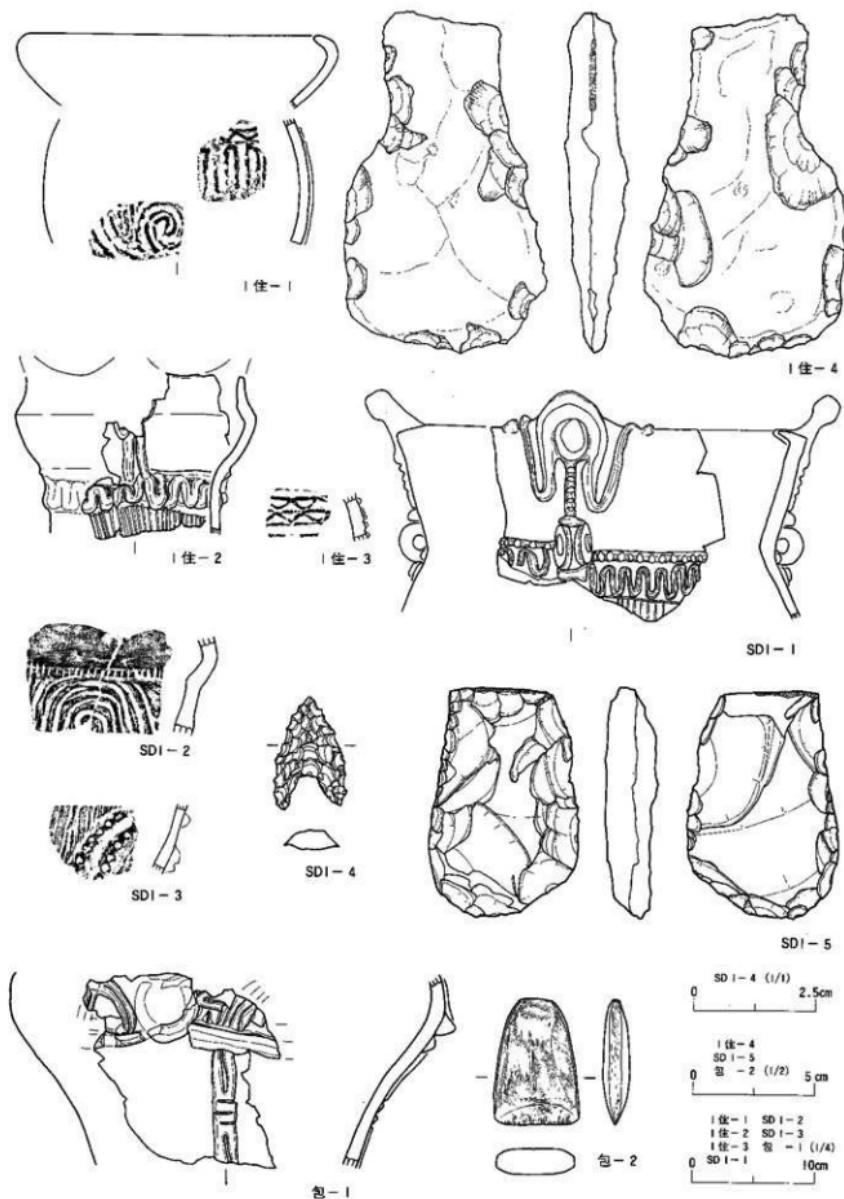
第2図 飯米場遺跡位置図(2) (1/5000)



第3図 飯米場遺跡調査区位置図 (1/2000)

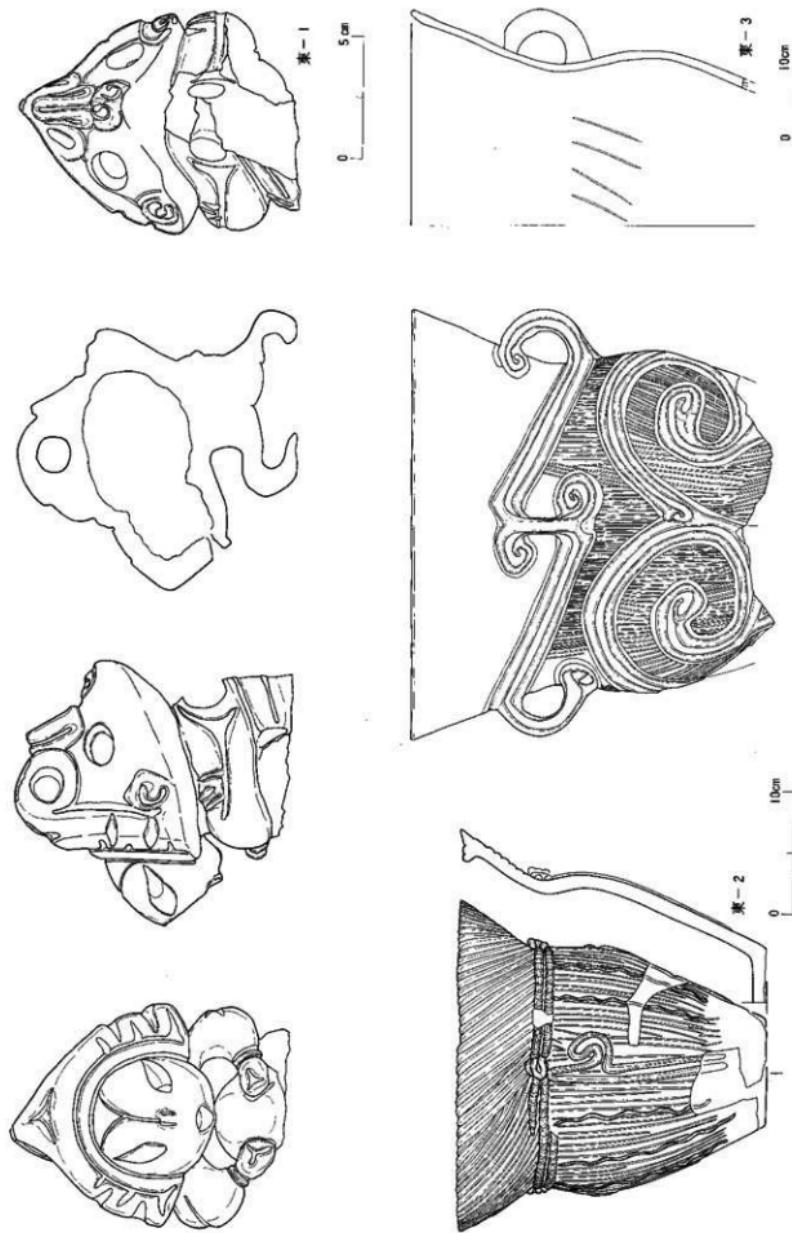
第4図 平成4年度調査区平面図 ( $S = 1/40$ )



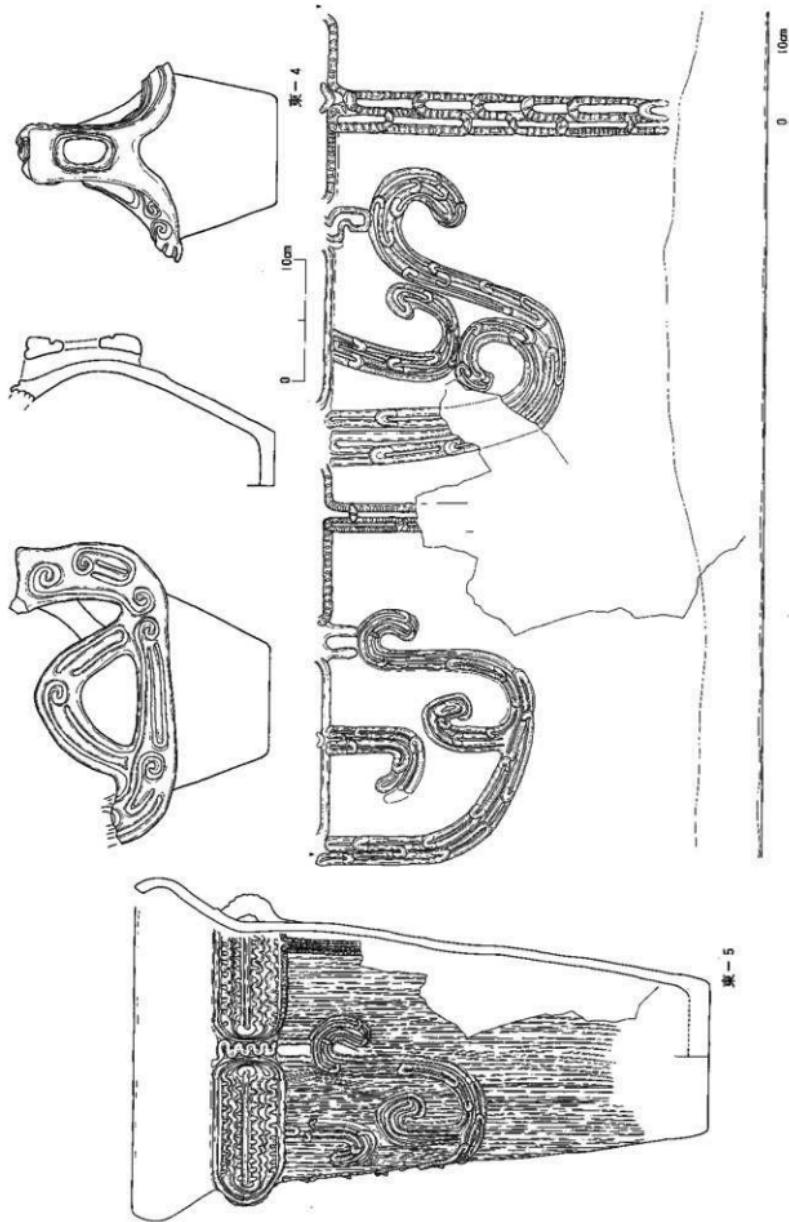


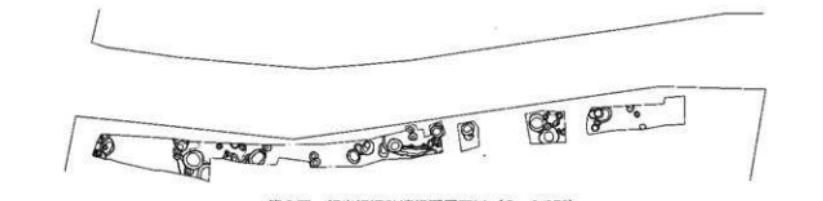
第5図 平成4年度飯米場遺跡出土遺物 (S=1/1-1/2-1/4)

第6圖 版米塙遺跡出土遺物(1) (東京國立博物館所藏) ( $S = 1/2 \cdot 1/4 \cdot 1/6$ )

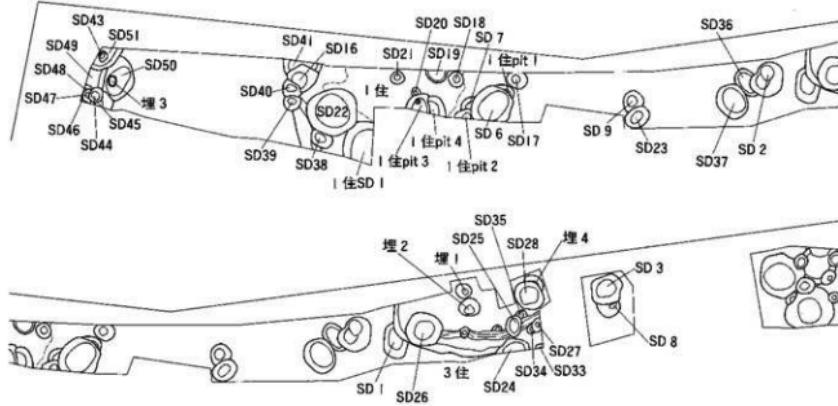


第7圖 飯米場遺跡出土禮物2 (東京國立博物館所藏) (S=1/4-1/6)

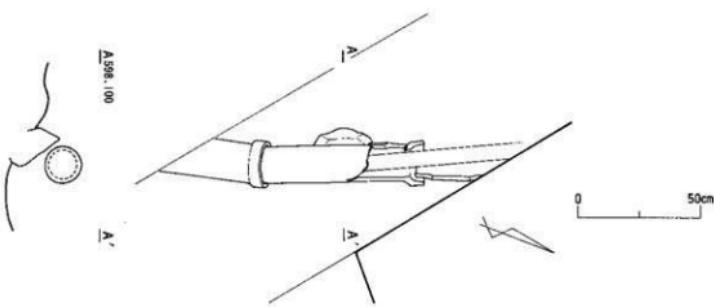




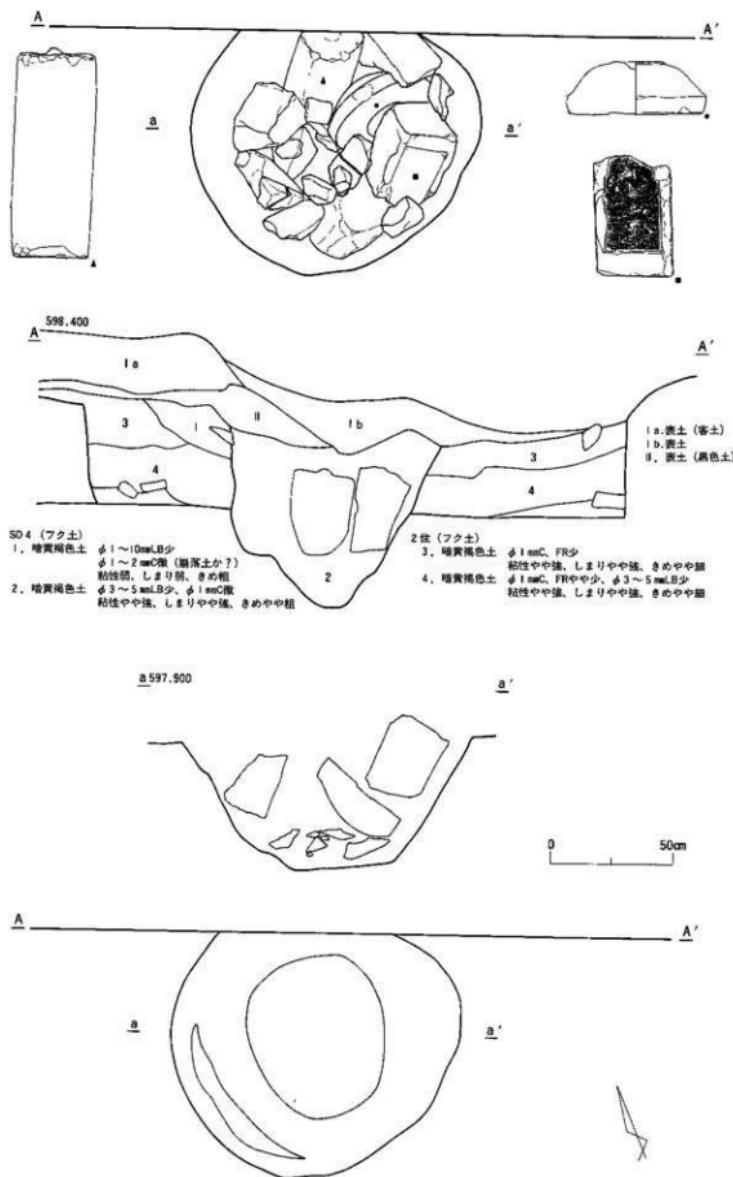
第8図 飯米場遺跡遺構配置図(1) (S=1/150)



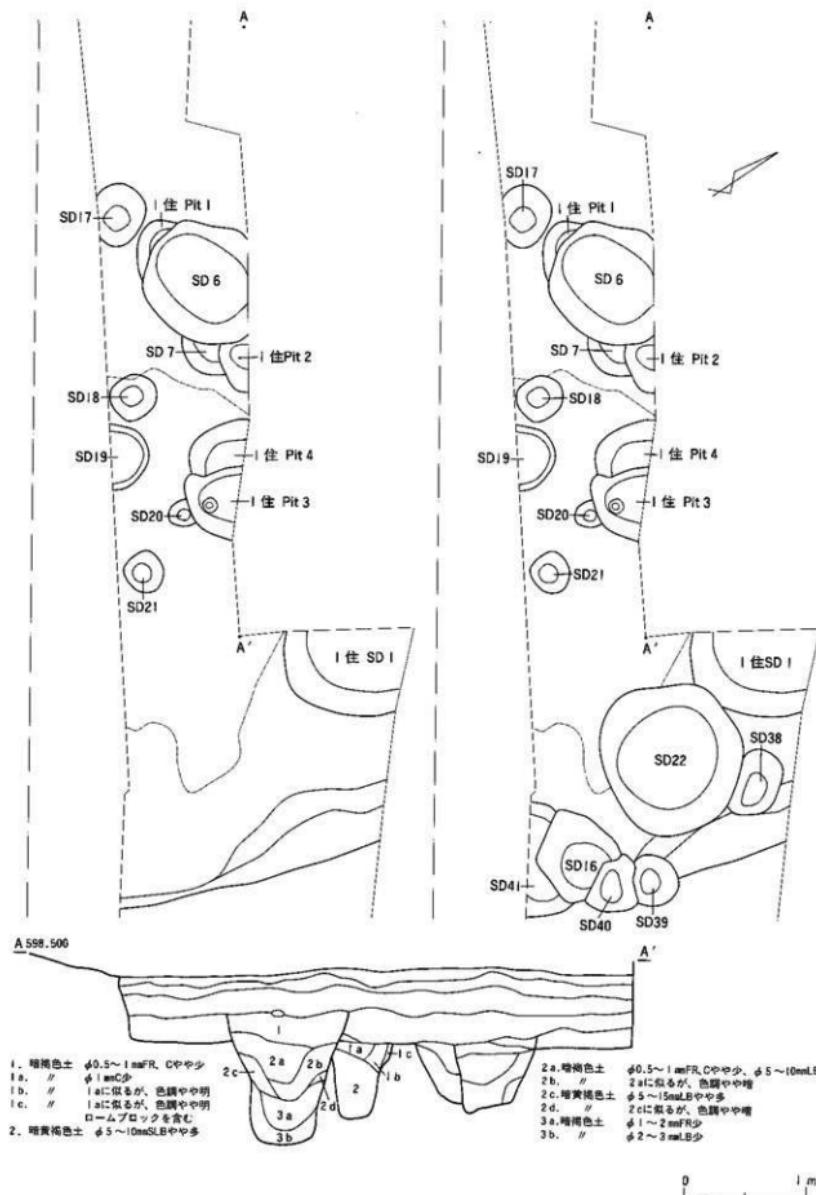
第9図 飯米場遺跡遺構配置図(2) (S=1/120)



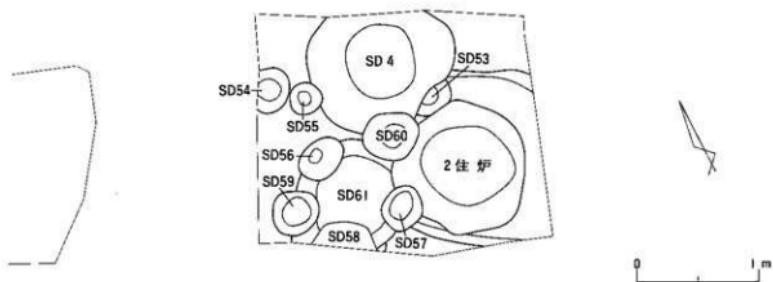
第10図 土管平・断面図 ( $S=1/20$ )



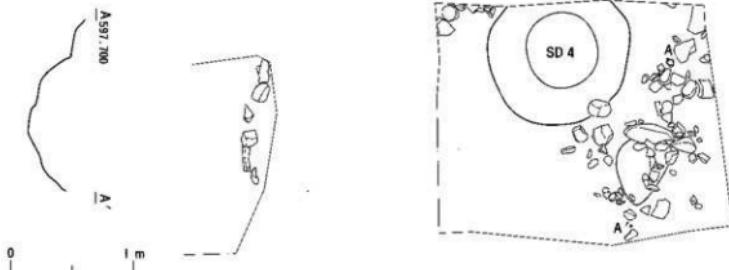
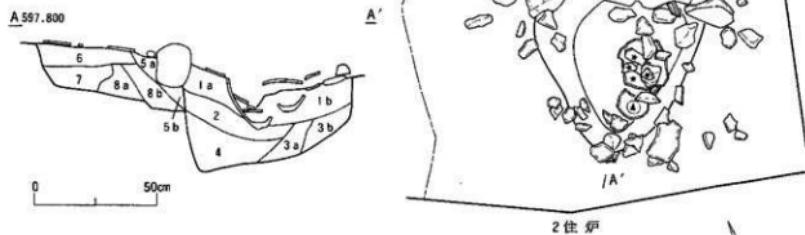
第11図 4号土坑平・断面図 (S=1/20)



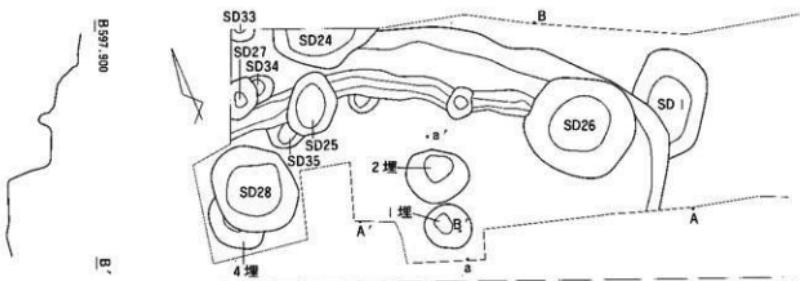
第12図 1号住居跡平・断面図 (S=1/40)



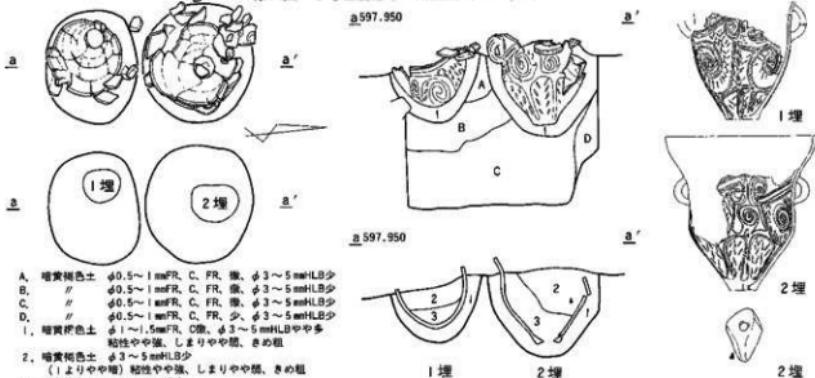
- 1.a.暗褐色土  $\phi 1 \sim 2 \text{ mm}$  FRやや多、 $\phi 1 \text{ mm}$  C少  
 1.b. " 1aに似るが、しまりがない  
 2. 墓原褐色土  $\phi 1 \sim 3 \text{ mm}$  FRやや多、 $\phi 2 \text{ mm}$  R少  
 3.a.暗褐色土  $\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$  FRや少  
 3.b. "  $\phi 1 \sim 2 \text{ mm}$  FR少、 $\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$  SLB少  
 4. 墓原褐色土  $\phi 2 \sim 5 \text{ mm}$  R多  
 5.a.暗赤褐色土  $\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$  FRや少、 $\phi 1 \text{ mm}$  C少  
 5.b. " 8aに似るが、しまりいや弱  
 6. 墓原褐色土  $\phi 4 \text{ mm}$  C少  
 6. "  $\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$  SLBや少、しまりいや強  
 7. "  $\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$  R少、しまりや中強、田伊豆石の抜き取り痕  
 8.a.暗赤褐色土  $\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$  R少、 $\phi 1 \text{ mm}$  C少  
 8.b. " 8aに似るが、色濃いや暗  
 粒性: 1.a-1b>3a>3a>2>4  
 1.bより 3a>3b>1a-1b>2>4  
 きめ 4>2>1a-1b>3a>3b



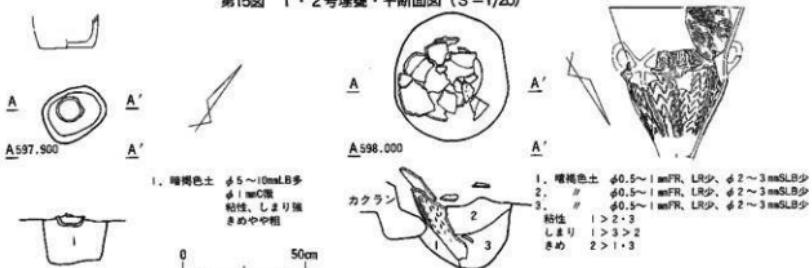
第13図 2号住居跡平・断面図 (S=1/20-1/40)



第14図 3号住居跡平・断面図 (S=1/40)

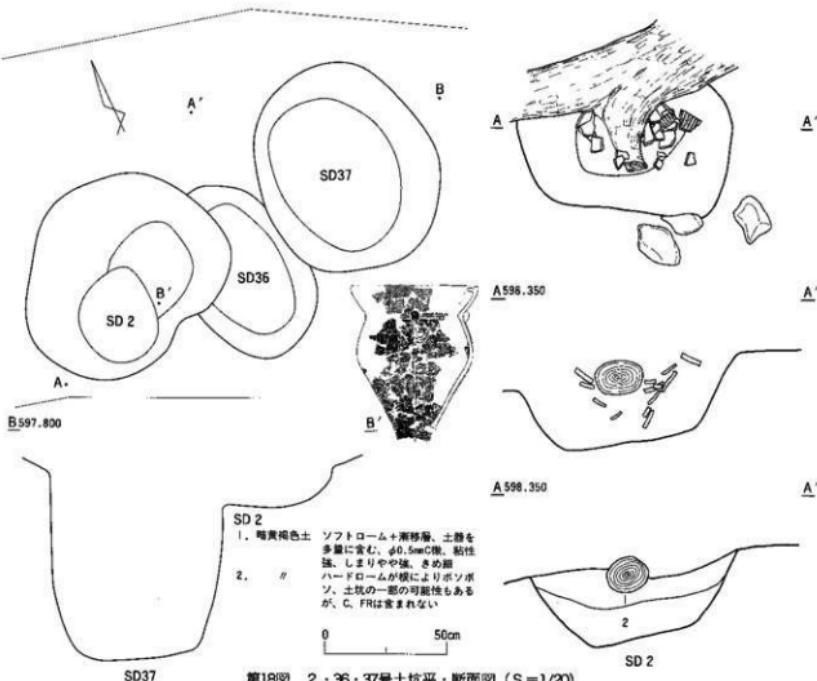


第15図 1・2号埋蔵・平面図 (S=1/20)

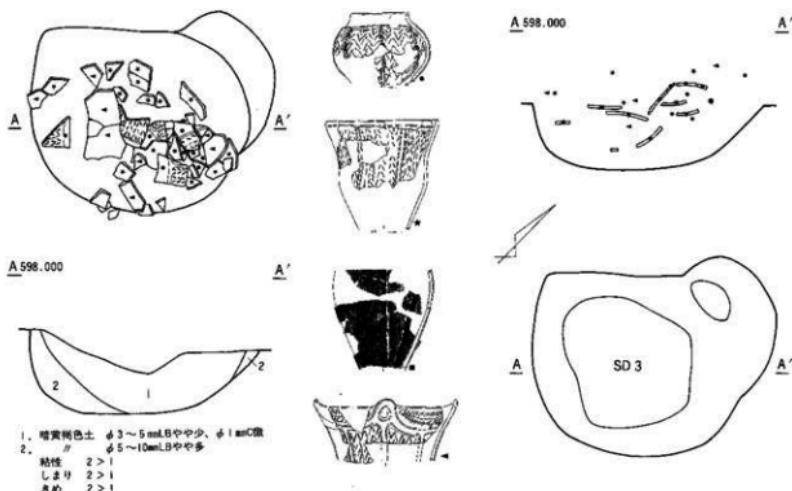


第16図 3号埋蔵平・断面図 (S=1/20)

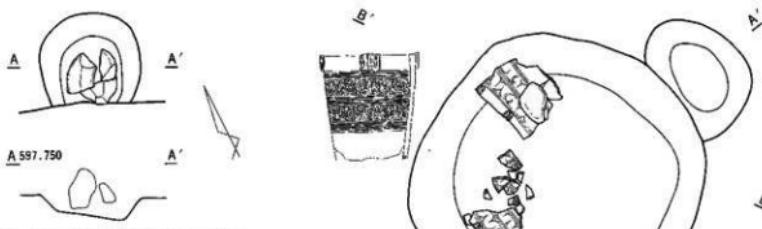
第17図 4号埋蔵平・断面図 (S=1/20)



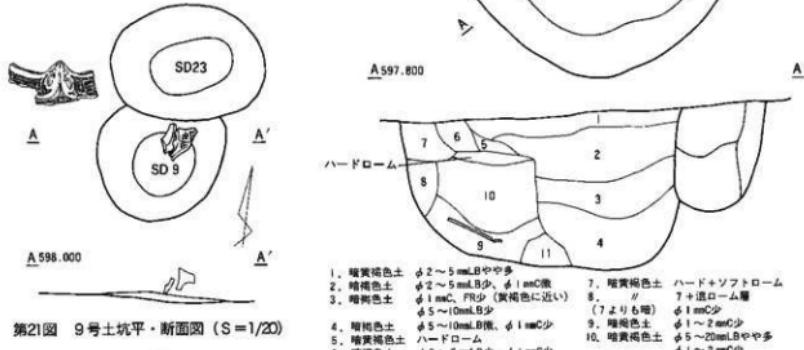
第18図 2・36・37号土坑平・断面図 (S=1/20)



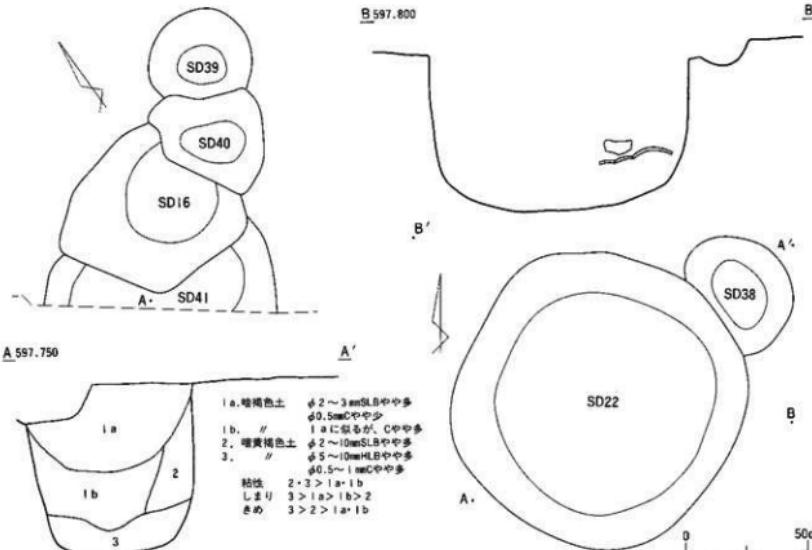
第19図 3号土坑平・断面図 (S=1/20)



第20図 5号土坑平・断面図 (S=1/20)

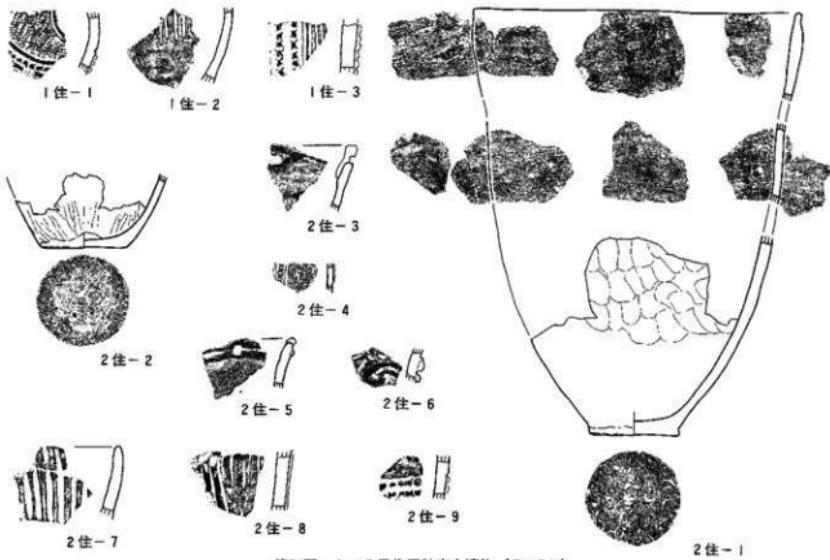


第21図 9号土坑平・断面図 (S=1/20)

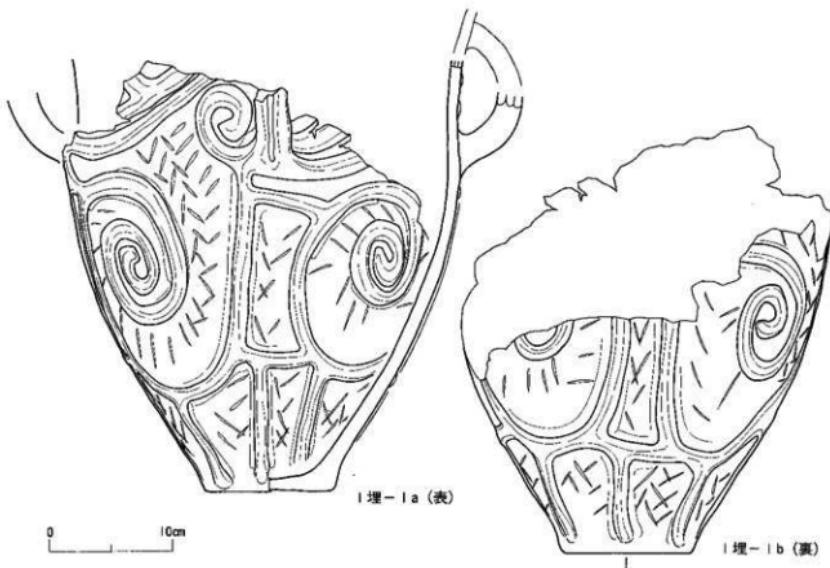


第22図 16号土坑平・断面図 (S=1/20)

第23図 22号土坑平・断面図 (S=1/20)

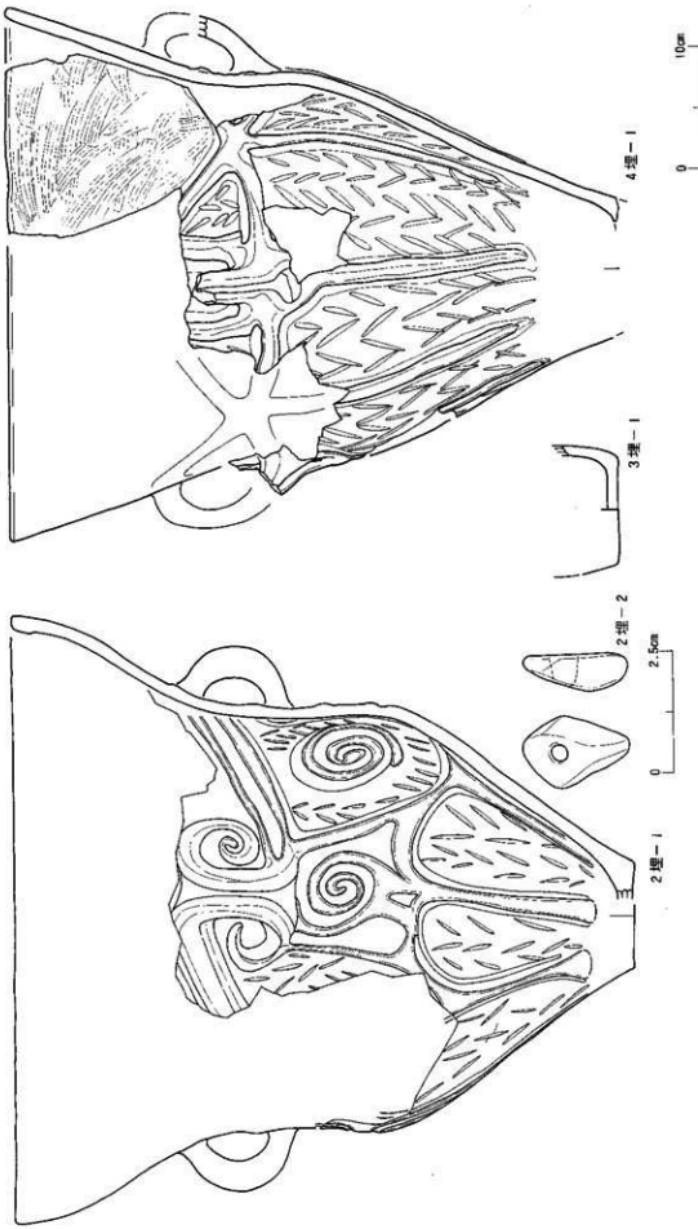


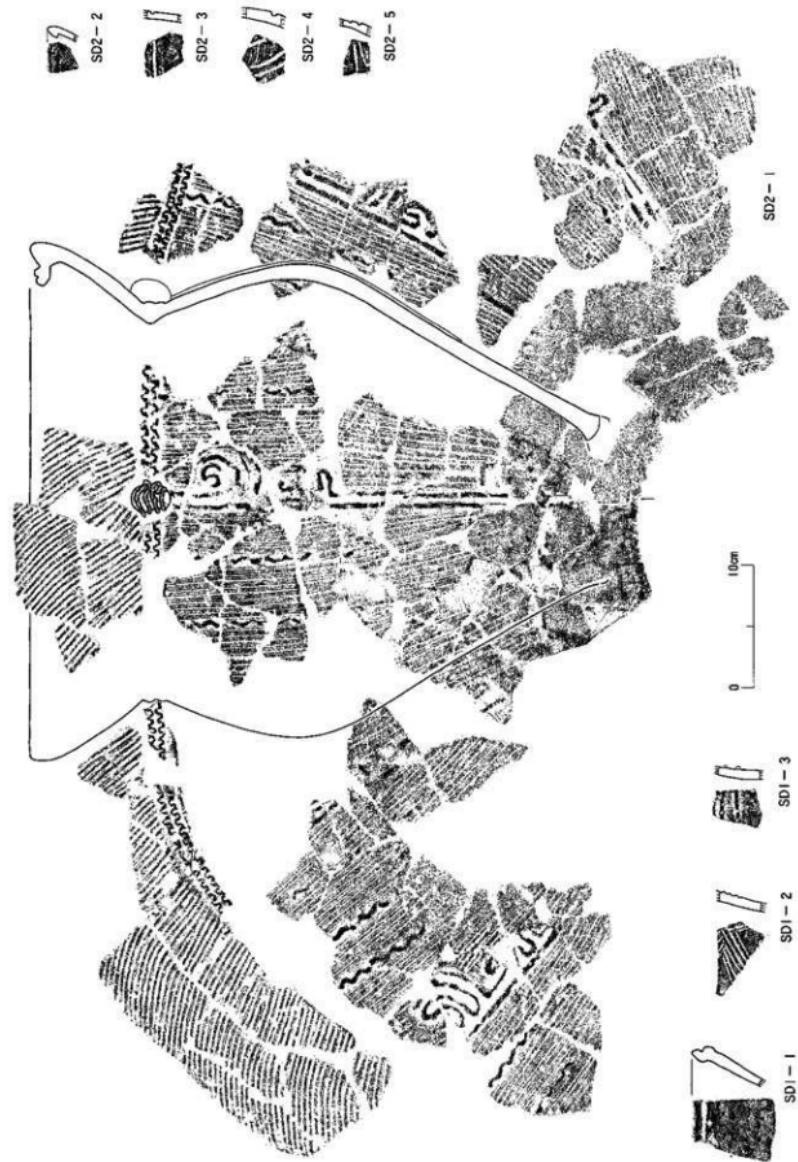
第24図 1・2号住居跡出土遺物 ( $S=1/4$ )



第25図 1号埋葬出土遺物 ( $S=1/4$ )

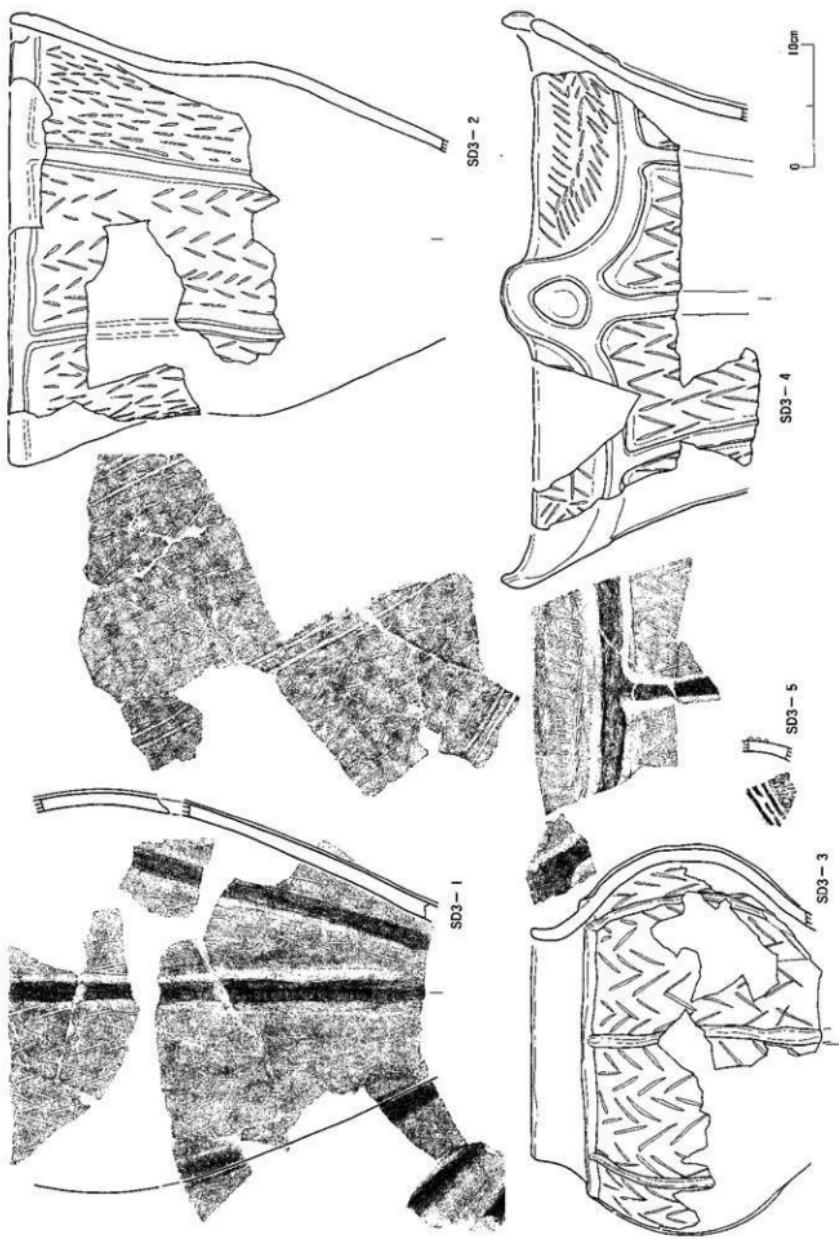
第26圖 2·3·4號埋藏出土遺物 ( $S = 1/1 \cdot 1/4$ )

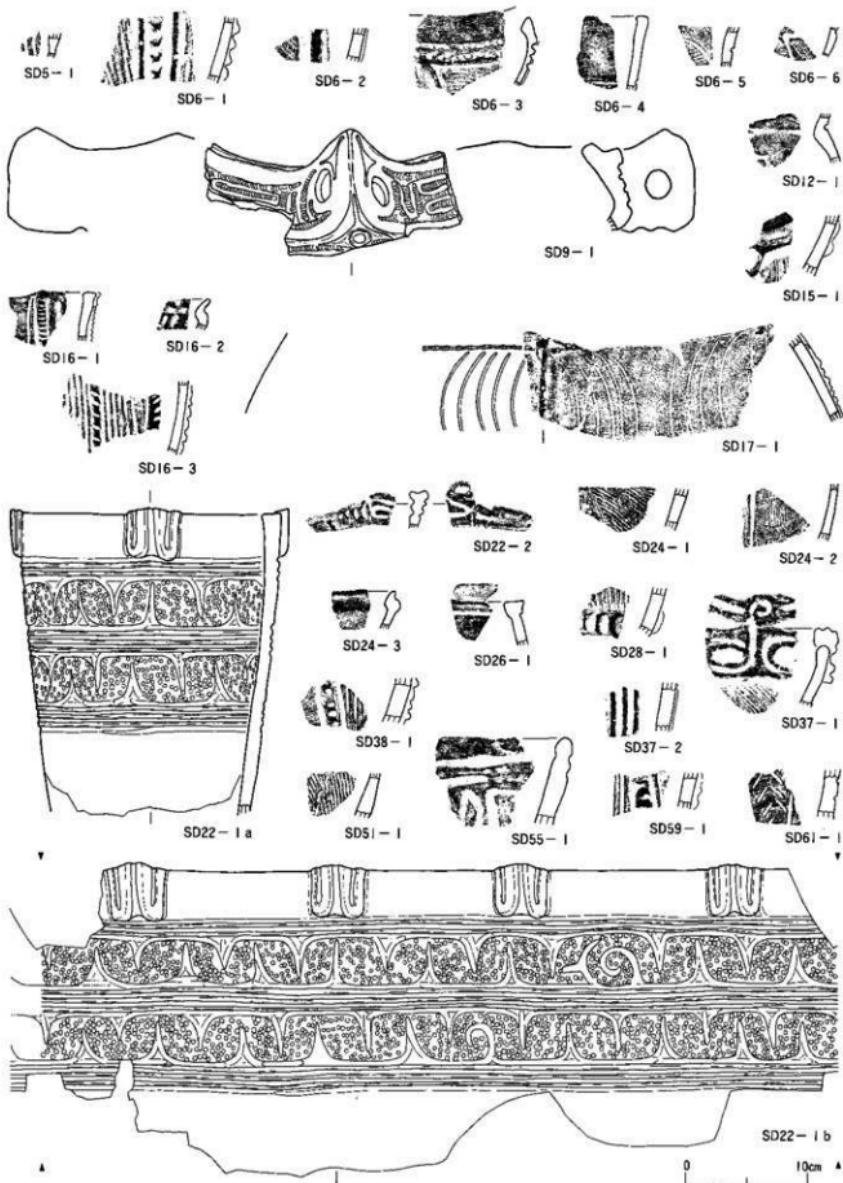




第27图 1·2号土坑出土遗物 (S=1/4)

第28图 3号土坑出土遗物 (S = 1/4)





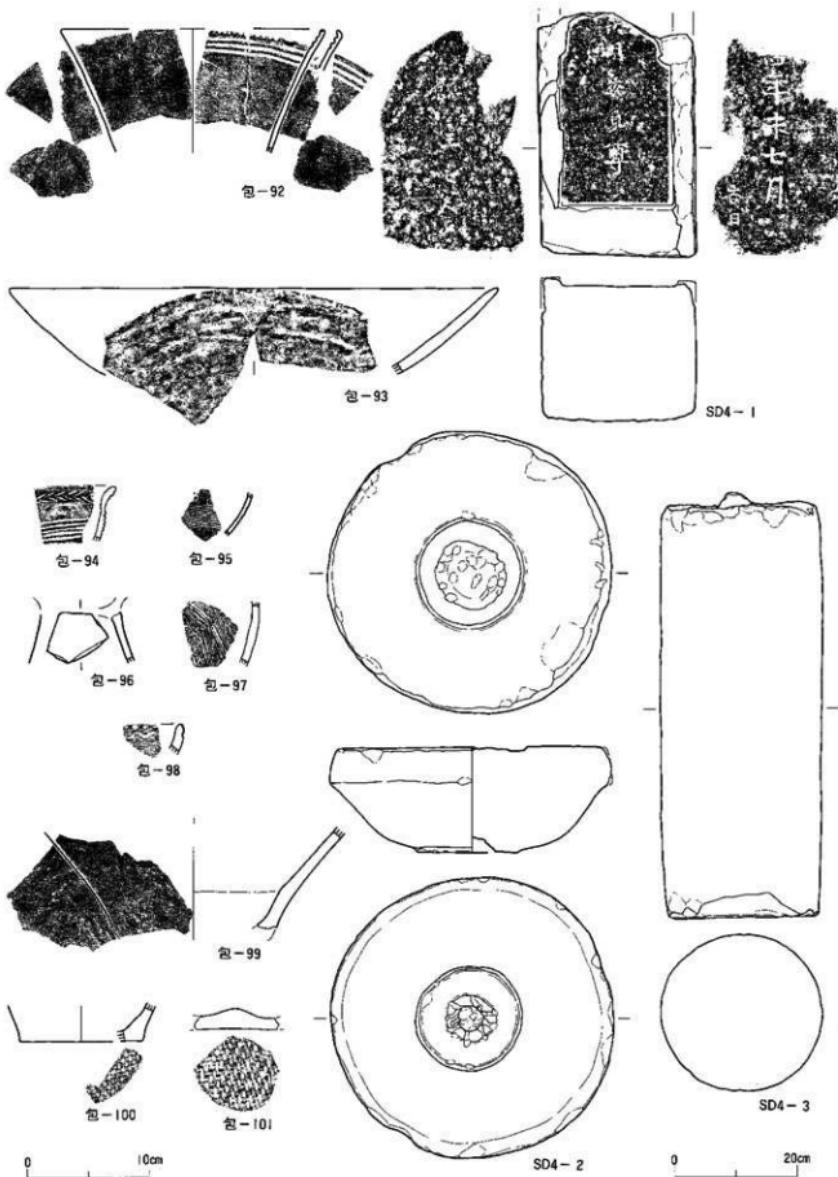
第29图 5·6·9·12·15·16·17·22·24·26·28·37·38·51·55·59·61号土坑出土遗物 (S=1/4)



第30图 遗物外出土遗物(I) (S=1/4)

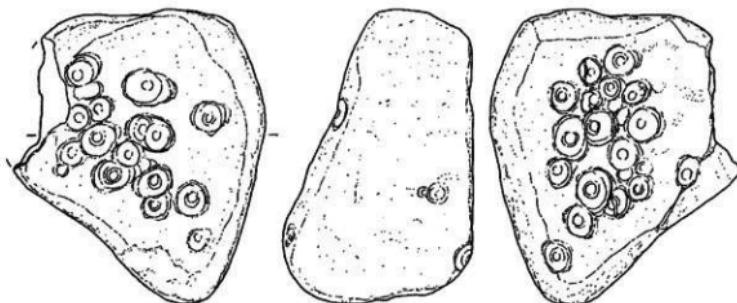


第31図 遺構外出土遺物(2) (S=1/4)

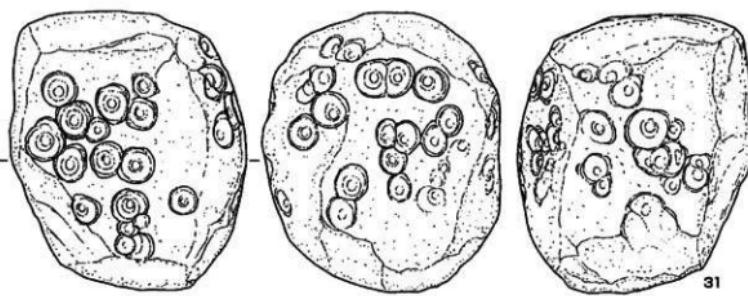
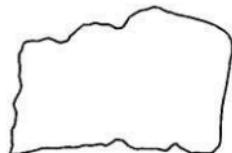


第32图 遗物外出土遗物(3) (S=1/4)

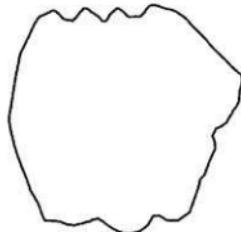
第33图 4号土坑出土遗物 (S=1/8)



29



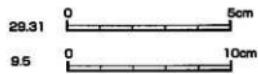
31



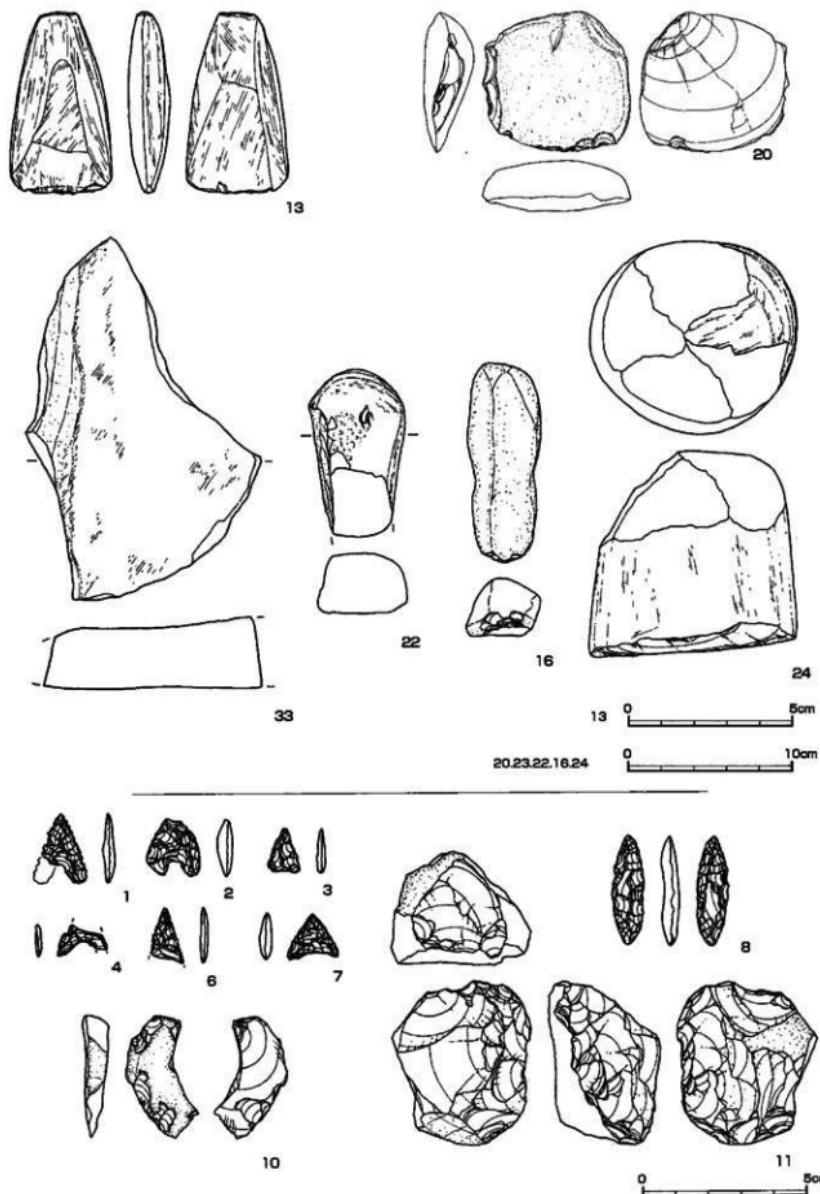
9



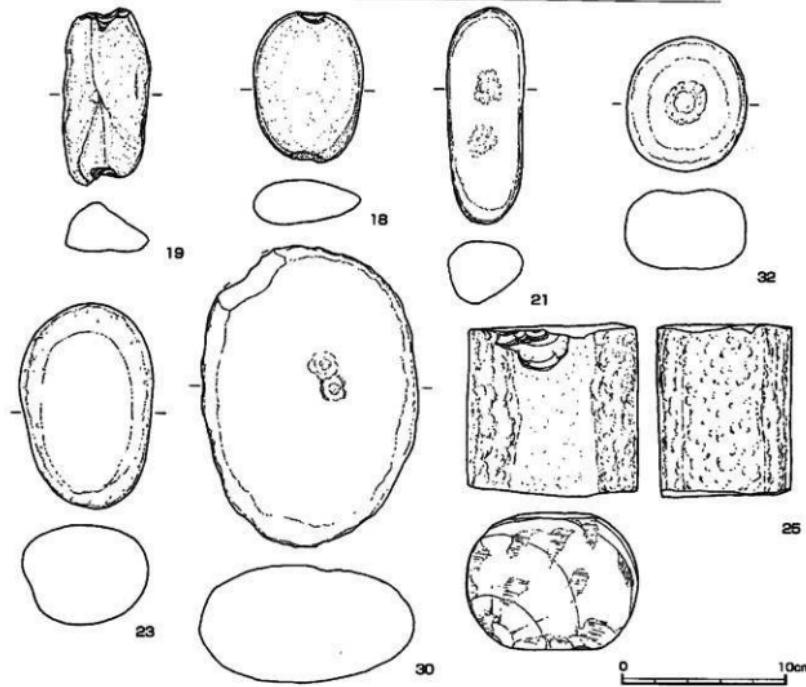
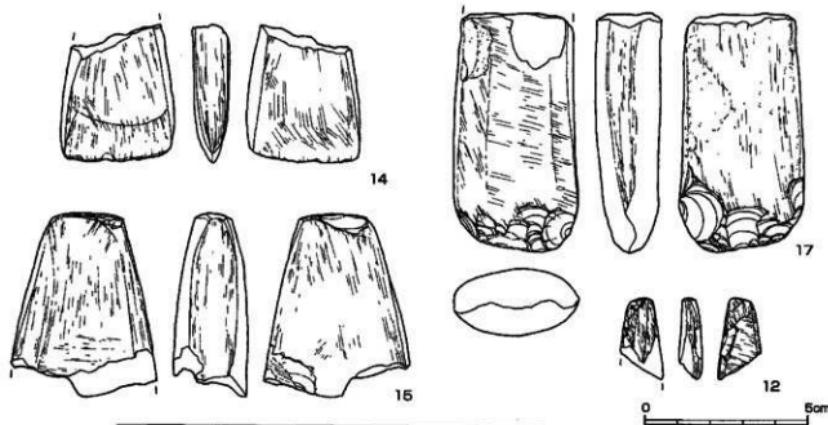
5



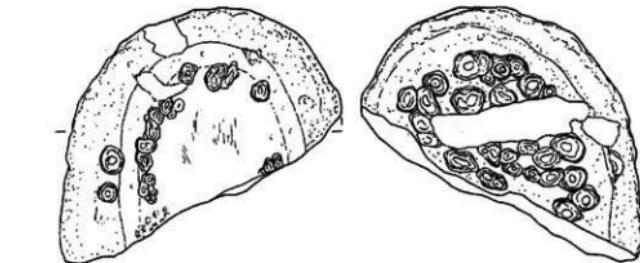
第34图 1·3号住居跡·31号土坑出土石器 (S=1/3-2/3)



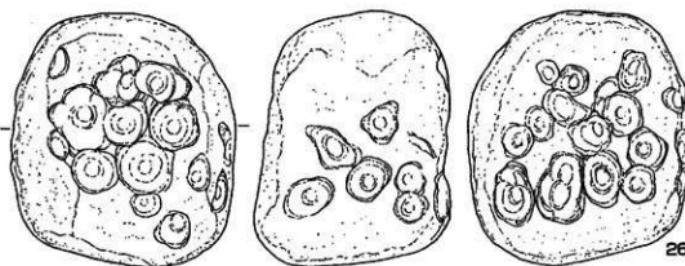
第35区 2号住居跡出土石器(上)・剥片石器(下)(S=1/3-2/3)



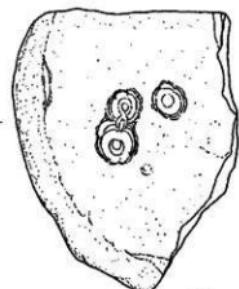
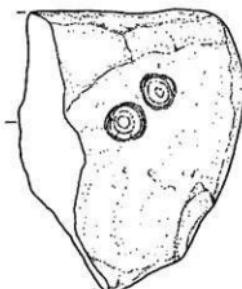
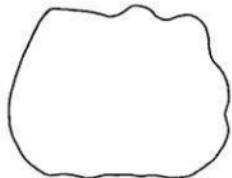
第36図 磨製石斧(上)・礫石器(下)(1) (S=1/3-2/3)



28



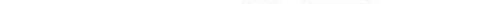
26



27



32 - 33



第37図 磚石器(2) (S = 1/3-1/4)

第1表 グリッド・遺構毎の時期別出土器重量表

早期	中期						後期		不明	合計		
	勝坂前半	勝坂後半	曾利前半	曾利後半	曾利終末	称名寺	堀之内	加曾利B				
0グリッド		870	19			31	127		407	1,454		
1グリッド		23	10	50	228				437	748		
2グリッド				1,065	279		158		1,026	2,518		
3グリッド	6		33	141	284		42		395	901		
4グリッド	87		158	67	1,820	54	358		1,620	4,164		
5グリッド					58	1,400	46	423	1,920	3,847		
6グリッド						79	13		112	204		
7グリッド				128	651		102	1,250	3,200	5,331		
8グリッド										0		
9グリッド				166	1,020		28	617	65	3,330	5,226	
10グリッド			27	478	1,073		356	1,029	7,169	10,132		
11グリッド				148		106		238		504	905	
Aグリッド				70	310	472	183	22	324	1,230	2,674	
Bグリッド				32	534	371			705	31	1,520	3,253
Cグリッド				208	926	1,130		66	445	4,260	7,035	
Dグリッド	10		1,200	753	759				87	1,540	4,349	
JU1(覆土)			143	809	110			14		1,111	2,187	
JU1-Pit1										35	35	
JU1-Pit3				226	139					76	441	
JU1(床下)				33						153	186	
JU1-SD1					19					83	102	
JU2				114	189			143		371	817	
JU2床直		18		153						170	341	
JU2床下				42	52			9		133	236	
JU2印加					50			7		285	342	
JU2新移			17					1,560		65	1,642	
JU2炉掘り方					9			26		95	130	
JU3										38	38	
SD1								76		32	108	
SD2				4,000	29						4,067	
SD3				50	7,117			35		261	7,463	
SD4					191	8		56		33	288	
SD5								4		19	23	
SD6			106	84	131	45		94		110	570	
SD9			692								692	
SD10										52	52	
SD11					28						28	
SD12					37			50		21	108	
SD13					31					60	91	
SD15					63					19	82	
SD16			95	195	137			53		342	822	
SD17								237			237	
SD22			2,149		165			18		156	2,488	
SD24					93			27		45	165	
SD26			21	11							32	
SD28			27		33					32	92	
SD32					60						60	
SD36				220							220	
SD37			24	116			3			84	227	
SD38			42								42	
SD51				29						120	149	
SD55					94						94	
SD56	12									6	18	
SD69				26						26	52	
SD61					47			4		26	77	
1号埋甕					3,770						3,770	
2号埋甕					5,840						5,840	
1・2号埋甕掘り方				23	1,520					183	1,726	
3号埋甕					194						194	
4号埋甕					3,291					436	3,727	
合計	115	23	6,066	10,724	33,147	309	651	8,330	159	33,348	92,032	

第2表 観察表(1) (土器・土製品・石造物)

図版番号	記号	遺構名	種類	部位	時期	胎土	色調(内)	色調(外)	重量(g)	接合関係	
第24回1住-1	JU1	1号住居跡	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	白・赤・乳白色	黒色	暗赤褐色	32		
第24回1住-2	JU1	1号住居跡	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	白・黒光・赤	黒色	褐色	33		
第24回1住-3	JU1	1号住居跡	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	白・黒・乳白色	橙色	褐色	31		
第24回2住-1	JU2#4-4 -Pi3	2号住居跡	深鉢形土器	底部	堀之内	白・黒・赤・黒光	褐色～にぶい 橙色	褐色～にぶい 橙色	965	JU2#4-1/2/3/6/8/ 11	
第24回2住-2	JU2#5-5	2号住居跡	深鉢形土器	底部	堀之内	白・乳白色・赤・ 黒	にぶい褐色	にぶい褐色	173		
第24回2住-3	JU2#-泥 り方	2号住居跡	深鉢形土器	口縁部片	堀之内	白・黒光	明赤褐色	褐色	21		
第24回2住-4	JU2#-括	2号住居跡	深鉢形土器	胴部片	堀之内	白・黒光・赤	橙色	灰黄褐色	6		
第24回2住-5	JU2	2号住居跡	深鉢形土器	口縁部片	堀之内	白・金色・赤	明赤褐色	褐色	22		
第24回2住-6	JU2	2号住居跡	深鉢形土器	胴部片	堀之内	白・赤	にぶい褐色	にぶい黃褐色	16		
第24回2住-7	JU2	2号住居跡	深鉢形土器	口縁部片	曾利前半	白・金色・赤・ 黒光	暗赤褐色	暗赤褐色	41		
第24回2住-8	JU2	2号住居跡	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	堀・黒光・赤	黒色	褐色	42		
第24回2住-9	JU2	2号住居跡	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	黒光・白・乳白色	にぶい黃褐色	黄褐色	22		
第25回1州-1	SU1	深鉢形土器	胴部～底部		曾利後半	白・黒光・赤	にぶい赤褐色	3,800	4G-括		
第25回2州-1	SU2	SU2	深鉢形土器	口縁部～底部	曾利後半	白・赤・黒・金色	にぶい赤褐色	暗褐色	6,000	SU1/SU4	
第25回2州-2	SU2	SU2	鏡立環底鉢	光形	?				2		
第26回3埋-1	SU3	SU3	深鉢形土器	底部	曾利後半	白・乳白色・黒・ 赤	にぶい褐色	褐色	194		
第25回4埋-1	SU4	SU4	深鉢形土器	口縁部～胴部	曾利後半	金色・白・赤	灰褐色	褐色	3,870	4G-1/4G-括/5G- 括	
第27回SD1-1	SD1	SD1	深鉢形土器	口縁部片	堀之内	黒光・金色・白	浅黄褐色	褐色	40		
第27回SD1-2	SD1	SD1	深鉢形土器	胴部片	堀之内	金色・白・乳白色	赤褐色	暗赤褐色	20		
第27回SD1-3	SD1	SD1	深鉢形土器	胴部片	堀之内	白・黒光・金色	暗褐色	褐色	15		
第27回SD2-1	SD2	SD2	深鉢形土器	口縁部～胴部	曾利後半	白・乳・白・黒・ 光	明赤褐色	にぶい赤褐色	5,600	SD36/2G-括	
第27回SD2-2	SD2	SD2	深鉢形土器	口縁部片	堀之内	白・乳・白・黒・ 光	にぶい赤褐色	暗赤褐色	4		
第27回SD2-3	SD2	SD2	深鉢形土器	胴部片	堀之内	白・金色・乳・白・ 赤	にぶい褐色	にぶい赤褐色	10		
第27回SD2-4	SD2	SD2	深鉢形土器	胴部片	堀之内	黒光・乳白色・白	黃褐色	黃褐色	16		
第27回SD2-5	SD2	SD2	深鉢形土器	胴部片	堀之内	白・乳白色・黒光	褐色	褐色	7		
第28回SD3-1	SD3-6	SD3	深鉢形土器	胴部	曾利後半	白・黒・赤・黒光	にぶい黃褐色	褐色～にぶい 褐色	1,630	SD3-13/22/23/25/ 32/33/SD3-括/ 5G-括	
第28回SD3-2	SD3-1	SD3	深鉢形土器	口縁部～胴部	曾利後半	白・黒光・黒	褐色	にぶい褐色	2,100	SD3-12/4/5/6/7/ 9/12/20/27/29/31/ SD3-括/5G-括/5 分(剖面 表) 表	
第28回SD3-3	SD3-13	SD3	深鉢形土器	口縁部～胴部	曾利後半	白・乳・白・黒・ 赤・黒光	明赤褐色	褐色	1,350	SD3-14/15/24/26	
第28回SD3-4	SD3-11	SD3	深鉢形土器	口縁部	曾利後半	白・透明・金色・ 黒光・赤	にぶい褐色	にぶい褐色	1,780	SD3-6/8/10/13/ 17/19/25/SD3-括/ SD32-括	
第28回SD3-5	SD3	SD3	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	白・乳白色・黒	褐色	褐色	24		
第29回SD12-1	SD12	SD12	深鉢形土器	胴部片	堀之内	黒光・白・赤	褐色	黑褐色	25		
第29回SD15-1	SD15	SD15	深鉢形土器	口縁部片	曾利後半	白・黒光	灰褐色	黑色	32		
第29回SD16-1	SD16	SD16	深鉢形土器	口縁部片	勝坂後半	白・孔白色・黒光	褐色	褐色	24		
第29回SD16-2	SD16	SD16	深鉢形土器	口縁部片	堀之内	白・黒光・乳白色	にぶい赤褐色	黑褐色	8		
第29回SD16-3	SD16	SD16	深鉢形土器	胴部片	勝坂後半	白・黒・赤	褐色	褐色	42		
第29回SD17-1	SD17	SD17	深鉢形土器	胴部片	堀之内	白・乳・白・黒・ 赤・金色	黃褐色	黃褐色	231		
第29回SD22-1	SD22	SD22	深鉢形土器	口縁部～胴部	勝坂後半	白・黒・黒光・赤	明赤褐色～に ぶい褐色	明赤褐色	2,200	SD22-2/3/4/5/7/ 8/JU2-括	
第29回SD22-2	SD22	SD22	深鉢形土器	口縁部片	堀之内	白・孔白色・金色	淡黄褐色	暗褐色	17		
第29回SD24-1	SD24	SD24	深鉢形土器	胴部片	曾利後半	白・黒・乳・白・ 赤	黃褐色	褐色	31		
第29回SD24-2	SD24	SD24	深鉢形土器	胴部片	曾利後半	白・乳・光・乳・白・ 赤	褐色	褐灰色	21		
第29回SD24-3	SD24	SD24	深鉢形土器	口縁部片	堀之内	孔白色・白・黒光	にぶい赤褐色	褐色	12		
第29回SD25-1	SD25	SD25	深鉢形土器	口縁部片	勝坂後半	白・孔・光・乳・白・ 赤	黒褐色	褐色	21		
第29回SD26-1	SD26	SD26	深鉢形土器	胴部片	勝坂後半	白・孔・光・乳・白・ 赤	褐褐色	褐色	26		
第29回SD26-1	SD26	SD26	深鉢形土器	胴部片	勝坂後半	白・孔・光・乳・白・ 赤	褐褐色	褐色	26		
第29回SD37-1	SD37	SD37	深鉢形土器	口縁部片	曾利後半	白・黒光・乳白色	黒褐色	明赤褐色	85		
第29回SD37-2	SD37	SD37	深鉢形土器	胴部片	曾利後半	白・黒光・乳白色	褐色	褐色	20		
第29回SD38-1	SD38	SD38	深鉢形土器	胴部片	勝坂後半	白・金色	黒褐色	黑色	41		
第29回SD56-1	SD56	SD56	深鉢形土器	胴部片	堀之内	白・孔白色・黒	にぶい褐色	褐色	3		

第3表 観察表(2) (土器・土製品・石造物)

出版番号	件記No.	遺構名	種類	部位	時 期	動 量	色調(内)	色調(外)	重量(g)	操作関係
第29回SD51-1	SD51	深鉢形土器	胴部片		曾利前半	白・黒・乳白色	明赤褐色	明赤褐色	18	
第29回SD55-1	SD55	深鉢形土器	口縁側片		曾利後半	白・黒光・乳白色	淡黄色	黒褐色	95	
第29回SD59-1	SD59	深鉢形土器	胴部片		曾利後半	白・黒光・乳白色	灰黄褐色	黒褐色	26	
第29回SD65-1	SD65	深鉢形土器	胴部片		勝坂後半	黒・白	にぶい橙色	橙色	55	
第29回SD61-1	SD61	深鉢形土器	胴部片		曾利後半	白	橙色	明黄褐色	32	
第29回SD6-2	SD6	深鉢形土器	胴部片		曾利後半	白・金色・黒	明黄褐色	にぶい赤褐色	19	
第29回SD6-3	SD6	深鉢形土器	口縁部片		堀之内	白・乳白色・黒光	橙色	浅黄褐色	43	
第29回SD6-4	SD6	深鉢形土器	口縁部片		堀之内	黒光・白・乳白色	にぶい褐色	にぶい褐色	20	
第29回SD6-5	SD6	深鉢形土器	胴部片		堀之内	黒光・白・乳白色	橙色	橙色	8	
第29回SD6-6	SD6	深鉢形土器	胴部片		堀之内	黒光・金色・乳白色	黄褐色	黄褐色	6	
第29回SD9-1	SD9	深鉢形土器	口縁部		勝坂後半	白・金色・黒光	橙色	橙色	635	
第30回包-01	4G	4G	深鉢形土器	胴部片	早期	白・金色・黒光・赤・透明	赤褐色	橙色	54	
第30回包-02	4G	4G	深鉢形土器	胴部片	早期	透・明・黒光・白・黒	黒褐色	橙色	29	
第30回包-03	4G	4G	深鉢形土器	胴部片	早期	白・金色・黒光・透・明・赤	にぶい橙色	橙色	24	
第30回包-04	4G	4G	深鉢形土器	胴部片	早期	白・金色・透明	黑色	黑色	17	
第30回包-05	4G	4G	深鉢形土器	胴部片	早期	赤・透・明・黒光	暗赤褐色	にぶい橙色	12	
第30回包-06	0G	0G	深鉢形土器	胴部片	早期	白・金色	にぶい褐色	橙色	9	
第30回包-07	4G	4G	深鉢形土器	底部片	早期	黒光・赤・白・黒	浅黄褐色	にぶい橙色	12	
第30回包-08	DG	DG	深鉢形土器	口縁部	勝坂後半	白・乳白色・黒光	橙色	橙色	557	
第30回包-09	0G	0G	深鉢形土器	胴部片	勝坂後半	白・乳白色・黒光	橙色	橙色	238	
第30回包-10	DG	DG	深鉢形土器	口縁部片	勝坂後半	白・黒光・黒・赤	にぶい赤褐色	橙色	58	
第30回包-11	DG	DG	深鉢形土器	口縁部片	勝坂後半	白・黒・乳・黒・白	暗赤褐色	赤褐色	143	
第30回包-12	CG	CG	深鉢形土器	口縁部片	勝坂後半	白・黒	橙色	にぶい赤褐色	26	
第30回包-13	DG	DG	深鉢形土器	口縁落片・側部	勝坂後半	白・乳白色・黒光	にぶい橙色	橙色	558	
第30回包-14	CG	CG	深鉢形土器	胴部片	勝坂後半	黒・白・黒光	橙色	橙色	82	
第30回包-15	覆土	覆土	深鉢形土器	胴部片	勝坂後半	白・乳白色・黒	橙色	橙色	104	
第30回包-16	CG	CG	深鉢形土器	胴部片	勝坂後半	白・黒・金・黒・黒	橘色	橘色	115	
第30回包-17	CG	CG	深鉢形土器	胴部片	勝坂後半	白・乳・白・黒・光・黒	黒褐色	黒褐色	70	
第30回包-18	CG	CG	深鉢形土器	胴部片	勝坂後半	白・黒光・乳白色	黒褐色	暗赤褐色	29	
第30回包-19	CG	CG	深鉢形土器	胴部片	勝坂後半	白・黒光・乳白色	にぶい赤褐色	暗赤褐色	41	
第30回包-20	DG	DG	深鉢形土器	口縁部片	勝坂後半	白・黒光・乳白色	反黄褐色	にぶい橙色	321	
第30回包-21	9G	9G	深鉢形土器	口縁部片	曾利前半	白・乳光	微色	橘色	51	
第30回包-22	BG	BG	深鉢形土器	口縁部片	曾利前半	白・乳白色・黒光	淡黄色	黒褐色	158	
第30回包-23	DG	DG	深鉢形土器	口縁部片	曾利前半	白・金色・黒光	赤褐色	暗赤褐色	92	
第30回包-24	BG	BG	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	白・黒光	橘色	橘色	11	
第30回包-25	BG	BG	深鉢形土器	口縁部片	曾利前半	白・黒光・乳白色	浅黄褐色	浅黄褐色	38	
第30回包-26	7G	7G	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	白・乳白色・黒光	浅黄褐色	橘色	32	
第30回包-27	7G	7G	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	白・乳白色・黒	にぶい橙色	にぶい橙色	31	
第30回包-28	CG	CG	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	黒光・白・乳白色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	61	
第30回包-29	AG	AG	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	白・乳・白・黒・光・黒	にぶい赤褐色	明赤褐色	37	
第30回包-30	DG	DG	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	白・黒光・乳白色	赤褐色	赤褐色	70	
第30回包-31	DG	DG	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	黒光・乳・白・色・口	橙色	橙色	71	
第30回包-32	CG	CG	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	白・黒光・透明	にぶい橙色	灰褐色	26	
第30回包-33	AG	AG	深鉢形土器	胴部片	曾利前半	白・乳白色・黒	橙色	橘色	37	
第31回包-34	CG	CG	深鉢形土器	口縁部片	曾利後半	黒光・白・乳白色	橘色	にぶい赤褐色	21	
第31回包-35	DG	DG	深鉢形土器	口縁部片	曾利後半	白・透明白・透明白	明赤褐色	暗赤褐色	34	
第31回包-36	CG	CG	深鉢形土器	口縁部片	曾利後半	黒光・白・乳白色	暗褐色	暗褐色	28	
第31回包-37	4G	4G	深鉢形土器	口縁部片	曾利後半	黒光・白・赤	黑色	にぶい褐色	52	
第31回包-38	?	?	深鉢形土器	胴部片	曾利後半	白・乳白色・黒光	にぶい黄褐色	明赤褐色	276	
第31回包-39	4G	4G	深鉢形土器	胴部片	曾利後半	黒光・金色・白	微色	明赤褐色	62	
第31回包-40	4G	4G	深鉢形土器	胴部片	曾利後半	白・赤・白・金色	微色	黄褐色	43	
第31回包-41	CG	CG	深鉢形土器	胴部片	曾利後半	黒光・白・赤	橙色	にぶい赤褐色	32	
第31回包-42	DG	DG	深鉢形土器	胴部片	曾利後半	黒光・白・乳・白・赤	浅黄褐色	橙色	60	
第31回包-43	AG	AG	深鉢形土器	胴部片	曾利後半	白・黒光・乳白色	黒褐色	橙色	32	

第4表 鋼表(3) (土器・土製品・石造物)

図版番号	注記No.	遺物名	種類	部位	時 期	胎 上	色 調(内)	色 調(外)	重 量(g)	接合関係
第31回包-44	9G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	黒光・白・乳白色	淡黄色	橙色	98	
第31回包-45	3G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・乳・白・色・黑光・金色	橙色	明赤褐色	91	
第31回包-46	4G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・金色・黑・赤	にぶい褐色	橙色	53	
第31回包-47	? G	深鉢形土器	脚部片		晉後半	白・金色・黑	にぶい褐色	黑褐色	18	
第31回包-48	10G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・黑	にぶい褐色	にぶい褐色	46	
第31回包-49	10G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	黒・白・赤・黒光	褐色～にぶい	にぶい褐色	36	
第31回包-50	10C	深鉢形土器	脚部片		晉後半	白・乳白色・黒	にぶい褐色	にぶい褐色	23	
第31回包-51	0G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	白・黒・赤	橙色	にぶい褐色	30	
第31回包-52	9G	深鉢形土器	脚部片		晉後半	白・黒・黒光	にぶい褐色～	にぶい褐色～灰褐色	27	
第31回包-53	7G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	白・黒・乳白色	橙色～にぶい	にぶい褐色	65	
第31回包-54	7G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・乳白色	橙色	にぶい褐色	16	
第31回包-55	9G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	白・乳光	橙色	橙色	29	
第31回包-56	8G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	白・乳白色・金色	橙色	橙色	26	
第31回包-57	BG	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・乳白色・赤	浅黄橙色	橙色	135	
第31回包-58	BG	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・黒光	橙色	橙色	30	
第31回包-59	7G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・乳白色・黒	橙色	黑褐色	19	
第31回包-60	7G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・乳光	にぶい赤褐色	明赤褐色	19	
第31回包-61	7G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・乳光	にぶい赤褐色	橙色	28	
第31回包-62	2G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・透明	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	12	
第31回包-63	7G	深鉢形土器	脚部片		晉後半	白・黒光	にぶい褐色	黑褐色	20	
第31回包-64	7G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	白・黒・乳白色	浅黄橙色	にぶい黃橙色	62	
第31回包-65	7G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	白・黒光・透明	橙色	橙色	85	
第31回包-66	9G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	白・黒光・乳白色	橙色	橙色	29	
第31回包-67	CG	深鉢形土器	脚部片		晉後半	白・乳白色・金色	にぶい赤褐色	黒褐色	34	
第31回包-68	10G	深鉢形土器	脚部片		晉後半	黒光・白・透明	橙色	橙色	22	
第31回包-69	10G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	黒光・白	灰褐色	橙色	27	
第31回包-70	BG	深鉢形土器	脚部片		晉後半	白・乳光・乳白色	橙色	明赤褐色	32	
第31回包-71	7G	深鉢形土器	脚部片		晉後半	白・金色	浅黄橙色	灰褐色	35	
第31回包-72	4G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	白・金色	にぶい褐色	浅黄橙色	15	
第31回包-73	7G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	黒光・白	明赤褐色	橙色	17	
第31回包-74	CG-括	深鉢形土器	脚部片		晉後半	白・黒光	にぶい赤褐色	にぶい褐色	13	
第31回包-75	7G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・黒光・乳白色	明赤褐色	明赤褐色	22	
第31回包-76	5G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・黒光・赤	橙色	橙色	30	
第31回包-77	2G	深鉢形土器	脚部片		晉後半	白・乳光・赤	橙色	橙色	49	
第31回包-78	5G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	黒光・白	にぶい褐色	にぶい褐色	31	
第31回包-79	7G	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	黒光・白	にぶい褐色	にぶい褐色	8	
第31回包-80	? 括弧表	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・乳白色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	18	
第31回包-81	BG 括	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・黒・赤	橙色	橙色	9	
第31回包-82	3G 括	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・黒	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	11	
第31回包-83	7G 括	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白	灰褐色	灰褐色	8	
第31回包-84	AG-括	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・乳白色	灰褐色	灰褐色	16	
第31回包-85	0G-括	深鉢形土器	口縁部片		晉後半	白・黒・乳・白色	灰褐色	灰褐色	36	
第31回包-86	2G-括	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	黒光	黑褐色	黑褐色	13	
第31回包-87	0G-括	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	白・黒	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	5	
第31回包-88	BG	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	黒光・白	赤褐色	にぶい赤褐色	8	
第32回包-89	7G	深鉢形土器	脚部片		晉後半	黒光・白	黑褐色	黑褐色	25	
第32回包-90	10G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	白・乳・赤	橙色	橙色	41	
第32回包-91	5G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	白・黒・赤	黑褐色	黑褐色	71	
第32回包-92	AC	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	黒光・白・赤	にぶい褐色	にぶい褐色	71	
第32回包-93	7G	深鉢形土器	脚部片		晉後半	白・黒光・金色	にぶい褐色	暗褐色	13	
第32回包-94	7G	深鉢形土器	脚部片		晉後半	白・黒光・金色	暗褐色	暗褐色	6	
第32回包-95	9G	深鉢形土器	胴泡片		晉後半	黒光・白・赤	黑褐色	黑褐色	5	
第32回包-96	4G	?	脚部片	占墳	白・黒・乳白色	黑褐色	橙色	15		
第32回包-97	BG	?	脚部片	占墳	白・金色・黒	にぶい赤褐色	にぶい褐色	19		
第32回包-98	9G	深鉢形土器	口縁部片	不明	白・余光	にぶい褐色	にぶい褐色	6		
第32回包-99	10G	深鉢形土器	脚部片	不明	白・赤・黒	灰褐色	橙色～にぶい	褐色	164	

図版番号	注記No.	遺構名	種類	部 位	時 期	胎 土	色 調(内)	色 調(外)	重 量(g)	接合関係
第32回SD4-1	SD4-1	4号土坑	石器物		近世以降					「月夜見ゆ」、「廟土七人」、「四年未七月吉日」
第32回SD4-2	SD4-2	4号土坑	石器物	石壺蓋中台	近世以降					
第32回SD4-3	SD4-3	4号土坑	石器物	石壺蓋竿	近世以降					
上野東京国立博物館所蔵										
第6回東-1	No34837		顔面把手		井戸尻	白				
第6回東-2			深鉢形土器	口縁部1/2以上	台利Ⅱ	白・黒				
第6回東-3	No37313		深鉢形土器	口縁部1/2以上						
第7回東-4	No37315				曾利Ⅲ	白・黒	暗い黄褐色			
平成4年試掘調査出土:遺物										
第58回1件-1	1件	1号住居跡	深鉢形土器	口縁部十周 断面部	曾利前半 后光	白・黒・乳白色 黒光	橙色	橙色	205	
第58回1件-2	1件	1号住居跡	深鉢形土器	口縁部1/3以上	曾利前半	白・黒・赤	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	275	
第58回1件-3	1件	1号住居跡	深鉢形土器	側部片	曾利前半	白・乳白色・黒 赤・黒光	黒色	橙色	28	
第58回1件-4	1件	1号住居跡	打撲石錐							264
第58回SD1-1	1号土坑	1号土坑	深鉢形土器	口縁部1/3以上	曾利前半	白・金色・黒光	にぶい黄褐色	黄褐色	1,100	
第58回SD1-2	1号土坑	1号土坑	深鉢形土器	側部片	曾利前半	白・黒・赤・黒光	橙色	橙色	228	
第58回SD1-3	1号土坑	1号土坑	深鉢形土器	側部片	曾利前半	白・黒・黒光	にぶい黄褐色	にぶい橙色	54	
第58回SD1-4	1号土坑	1号土坑	石器							1
第58回SD1-5	1号土坑	1号土坑	打撲石錐							137
第58回包1		遺物	深鉢形土器	側部片	勝坂後半	白・黒光・赤	にぶい赤褐色	にぶい橙色	464	
第58回包2		海螺小式瓶	始製石斧							30

第5表 観察表(4) (石器)

アルカ 通番	グリッド・ 通廣	岩種	石 材	加工・装飾 形 備	素材・石核 形 塗	素材・石核 の技術	備 考	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
29	1号住	多孔石	安山岩	不明	礫	通用外		181.0	153.5	118.1
31	1号住	多孔石	安山岩	不明	礫	通用外		172.0	144.6	146.3
9	3G/S031/1 弓地盤下	石匙	珪岩	SP	剥片	不明	鍛錬範疇で使用範光沢あり	16.1	35.3	6.3
5	3号住	凹基石鐵断片	黒曜石	SP	剥片	不明	脚片	12.2	10.2	4.7
13	2号住	磨製石斧	不明	擦切+研磨	不明	被熱、小形		55.9	31.3	12.6
20	2号住	削器	凝灰岩	HD	横長剥片	通用外		80.8	86.2	29.3
33	2号住	石皿(板状)	安山岩	なし	扁平錐	通用外	四方が破損している。	222.4	144.4	44.7
22	2号住	敲石	砂岩	なし	球状錐	通用外	表面に敲打痕	103.1	59.4	39.7
16	2号住	敲石	ホルンフェルス	なし	球状錐	通用外	端部に敲打痕	122.2	45.8	34.7
24	2号住	石棒	安山岩	敲打+研磨	角柱錐	通用外	被熱、下端部被損面を再研磨	126.3	127.0	118.3
1	7G	凹基石鐵	黒曜石	nHP/鋸繪	剥片	不明	片端欠	21.0	13.3	4.0
2	3G	凹基石鐵	黒曜石	nHP	剥片	不明	先端部欠	17.5	16.3	5.2
3	7G	石鍛断片	黒曜石	nHP	剥片	不明	先端部片	13.3	9.9	2.8
4	3G	凹基石鐵断片	黒曜石	nHP	剥片	不明	基盤片	9.5	15.0	1.9
6	3G	石鍛断片	黒曜石	nHP	剥片	不明	先端部片	17.0	9.9	2.6
7	3G/三層	凹基石鐵	黒曜石	nHP	剥片	不明	完形	14.2	15.5	4.0
10	3G/S031	二次加工剥片	黒曜石	HP	剥片	不明	削器・鋏品か。	37.5	22.2	8.4
8	2G	石斧	珪岩	HP	剥片	不明	完形	33.4	9.9	5.9
11	9G	石核	珪岩	HD	礫	通用外		50.5	42.4	34.8
14	AG一器	磨製石斧	蛇紋岩	擦切+研磨	不明	不明	刃部断片小形	42.7	35.1	12.0
17	表裏	敲石	砂岩	敲打・研磨	球状錐	通用外	末端部は敲打により溝れる	73.6	36.6	20.7
15	10G	磨製石斧	蛇紋岩	擦切+研磨	不明	基盤片		56.5	44.5	23.1
12	2G	磨製石斧	蛇紋岩	擦切+研磨	不明	基盤片	基盤断片・小形	25.0	13.0	7.0
18	7G一器	打欠石錐	砂岩	HD+敲打	扁平錐	通用外	小形	46.3	33.5	14.5
19	7G	打欠石錐	ホルンフェルス	HD+敲打	逆角錐	通用外		108.5	54.2	31.5
21	8G	敲石	砂岩	なし	球状錐	通用外	表面に敲打痕	133.3	48.5	40.7
32	4G	磨石+敲石	安山岩	なし	精円錐	通用外	表面と裏面に岩面。	88.5	74.7	50.1
23	BG一器	磨石+敲石	安山岩	なし	精円錐	通用外	表面に凹面	125.5	81.6	61.5
30	注記不明	磨石+敲石	安山岩	なし	精円錐	通用外	表面風化激しい	185.0	133.9	74.1
25	7G/SD4	石棒	安山岩	敲打	角柱錐	通用外	E-卜の折れ面を再削磨	106.9	105.3	83.5
28	試制	石皿(練付)	安山岩	敲打	扁平錐	通用外	裏面は全面に凹面を作出	212.4	233.2	74.9
26	表上一器	多孔石	安山岩	不明	礫	通用外	5面に凹底を作出	156.0	138.6	121.2
27	表上	多孔石	安山岩	不明	扁平錐	通用外	表面に凹底を作出	174.1	138.8	79.3



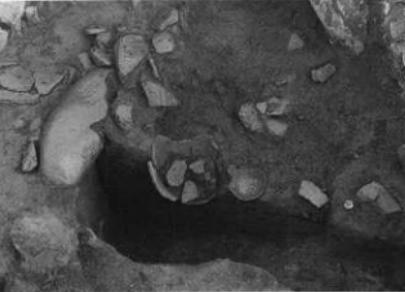
1号住居跡



3号住居跡



2号住居跡



2号住居跡炉



22号土坑



4号土坑



1・2号埋甕



2号埋甕ヒスイ出土状況



体験発掘①



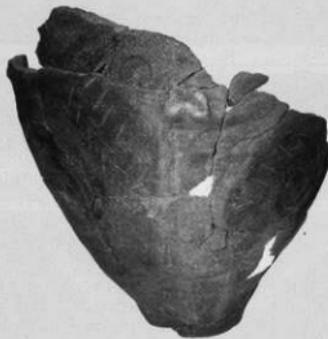
体験発掘②



22号土坑出土土器



2号埋壺



1号埋壺



4号埋壺

## 報告書抄録

ふりがな	はんまいばいせき						
書名	飯米場遺跡						
副書名	市道拡幅に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
編著者名	閑間俊明、角張淳一（株式会社アルカ）						
編集機関	蘿崎市教育委員会・蘿崎市遺跡調査会						
発行機関	蘿崎市教育委員会・蘿崎市遺跡調査会						
住所	〒407-8501 山梨県蘿崎市水神1丁目3番1号						
発行年月日	2002(平成14)年3月29日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經	調査期間	調査面積	調査原因
飯米場遺跡	蘿崎市徳坂町 宮久保6051-1	19207	H-35	35°44'02"	138°29'15"	2001年10月19日 ～ 2001年12月15日	235m <sup>2</sup> 市道拡幅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
飯米場遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 土坑	縄文土器 石器他	東京国立博物館所蔵出土資料及び 平成4年度調査資料の報告		
	神社	近世以降	土坑	石造物 他			

## 飯米場遺跡 一市道拡幅に伴う埋蔵 文化財発掘調査報告書一

平成14年3月20日 印刷

平成14年3月29日 発行

発行 蘿崎市教育委員会・蘿崎市遺跡調査会

〒407-8501

山梨県蘿崎市水神1-3-1

TEL0551-22-1111(内250)

印 刷 ほおづき書籍株式会社

長野県長野市柳原2133-5

